

霧島リノベーションまちづくり戦略会議 事前フォーラム 議事録

日 時 令和2年8月30日（日）13:00～18:10

場 所 霧島市役所別館2階 2-2会議室ほか

参加者 須部貴之、増田泰博、有村健弘、松本一孝、大西正将、徳永功一郎、奥野貴大、
白水梨恵、日永田剛、リノベリング（清田、酒井）、市職員（池田課長、梶G長、
勘場、東、宮之原）

須部 霧島リノベーションまちづくり事前フォーラムを始めます。冒頭あいさつをお願いします。

宮之原 9/25 のリノベーションまちづくり戦略会議の前に、皆さんの仲を深めようということで、この場を設けさせていただきました。長丁場になりますが、宜しくお願いします。では商工振興課長から一言と挨拶いたします。

池田課長 委員会にご参加いただきありがとうございます。去年から3回の講演会ではじまり、リノベーションまちづくりに取り組んでいます。手探りの状態ですので、(委員の皆様を)頼りにしています。4時間という長い時間になりますが、委員の皆さんのやりたいことを出して頂いて、ご意見を伺いたいと思います。

須部 では早速始めていきたいと思いますが、再度今日がどういった場か確認したいと思います。今回の目的はリノベーションまちづくり戦略会議を始めるにあたっての委員同士がよく知り合っ、仲間づくりのため、お互いをよく知るための時間です。また今日のワーク中で、皆さんのやりたいことが、霧島市がつくるガイドラインと、構想＝ランドデザインに繋がるよう



なプロジェクトの要素を出すような位置づけになっています。みなさんのやりたいことがガイドラインにどう結び付けられるかというような導線を引きたいと思っていますので、宜しくお願いします。分かりやすく言うと、霧島にいま、これからあったらいいなとか、やりたいなと思っていることを描くということで、皆さん事前にアンケートを書いて頂きますので、深掘りと共有をしていただき、皆さんの「こうしたほうが良い」という対話の中で、1枚の紙に描いていきたい。前半はお互いが知り合うワーク、後半は自分がやりたいことをプロジェクトベースにしていきたい。リノベーションまちづくりでは、都市の経営課題を戦略的に解決していく、リノベーションスクールを通じて同じ考え方を共有する仲間集めをする、実際そのプロジェクトをするのが家守舎で、タウンマネジメントする会社を作るという3つの要素がある。キーワードとしては、今あるものを使う、新しい使い方をする、

民間主導で行政が支援していく。皆さんに対しては、何かやりたいものをプロジェクトに起こして、行政と一緒にこのまちをどういう風に使いたいのかということを、今後9月からの会議で一緒にインプットしながらアウトプットしていく。そして来年、国分の中心街になりますが、リノベーションスクールがある。



では、自己紹介をひとりずつお願いします。

有村) こんにちは。住まいずの、隼人から来た有村です。工務店と林業の会社です。まちづくりの方では趣味でやっているバーベキューのインストラクターの検定試験をやったり、グルメイベントをやったりしてます。やりたいことは小浜ビレッジ。明日(8/31)登記が完了する株式会社小浜ビレッジというタウンマネジメントの会社で、私と仲間たちと隼人町小浜をメインで、まちづくりをやっていくので、他のエリアの方々とも繋がって、一緒に霧島を盛り上げていきたい。



白水) はじめまして。私は4年位前に鹿児島市から霧島市の方に、夫の仕事の都合で引越して、今は(一社)テンラボというフリーランスのチームで霧島中心にまちづくりの仕事をしていたりします。今年中に横川町に家族全員で引っ越して、横川が大好きになったので、ばりばりやっていきたい。いま横川で築89年の古民家を借りて、改修作業をしながら来年春のゲストハウスの開業を目指しています。あと横川町内の川を使った自然体験ツアーをやったりしています。主に中山間地域とか田舎の方に興味があるので、そういった目線で参加できればと思っています。



松本) 松本です。PBOOKMARKという会社をやっています。最近で言うと霧島ガストロノミーのSNSの運用の研修や、鹿児島の特産品協会のEC運営、企業のサポートをしているんですが、創業支援というところに手が回らないということもあったので、7/1に(一社)リオーサムシティという会社を作りまして、リノベリングと絡ませながら創業支援ができれば。



徳永) 徳永功一郎です。本業は工務店をしてまして、まちづくりとしては、出身の溝辺町のほうで、限界集落の山を使ってラブ&ベーシックという皆で楽しむイベントをやっています。自然だったり建物だったり、そういう物の使い方を色々考えて、日々お祭りをやったり、イベントをやりながら、皆で考える場をつくらうとやっています。このメンバーとやるのが楽しみです。



増田) マルマメン工房という屋号で、旧霧島町で大豆と麦を栽培しています。今現在は新規就農者の支援団体霧島ネオファーマーズをさせていただいて、始良伊佐の青年クラブの会長も務めています。私も 10 年前に移住してきたのですが、霧島の景色が好きで、これから先、この景色をどう残していくか考えつつ、農業をしています。今後も農業をしながら景観とまちづくりと一緒に携わり、いろんな面で農村部がもっと活気づくようにできたらと思っています。



日永田) 隼人町からきました日永田です。普段はサラリーマンをしていて、出身は福岡で 13 年前に霧島に来て、家まで買っちゃったんで永住する予定です。まちづくりに関してはペチャチャナイトというイベントのスタッフをやっています。その変のおじちゃんおばちゃんでも良いのですが、面白い人の話を聞く場をつくる運営と、あと趣味として、建築とか好きで、家は当時築 42 年の家を買って、自分でやったわけではないですがリノベーションして、今の生活に満足していて、いろいろ改造しながら生活しています。最近の趣味が野菜作りで、プランターの上にロボットを乗せたり、ハイテク系が好きなので、何かできないかなとワクワクを探しているところです。



奥野) BACK FIELD COFFEE の奥野です。佐賀県出身なんですが、高校卒業して就職する際に、薩摩川内市に住んだんですが、霧島市が好きだったので脱サラしてコーヒー屋になりました。また街に楽しいスポットがあればということで、転々としながら営業しています。ゆくゆくは山の方でカフェと趣味のキャンプ場みたいなのをやりたいと思ってて屋号はあるんですが実現できるか不安なところです。



大西) 大西と申します。ウェブサイト製作とシステム製作をやっています。4年前に霧島に来て定住することになりまして、来たときには何か盛り上げていこうみたいな気概はなかったんですが、いろんな人と繋がっていく中で、例えば仕事で言ったらIT業やっているんですけど地元の霧島でなかなかそういう人が育つ土壌がないというか、またそういうところで子ども=若い人向けに、プログラミング教室をやって育てたいという構想を立てたりしています。まちづくりとしては霧島商工会議所の青年部の副会長をしていて、クリエイティブな活動ではないのですが、街の活動に参加しています。趣味はキャンプです。



松本) バナナワークスというデザインチームで2名参加します。

橋口) 霧島市でデザイン業をしています橋口です。安藤と二人でやってます。今回、リノベーションまちづくり戦略会議の、最終的にロゴとガイドラインの製作に携わります。今日は撮影だったり、うろちょろします。



リノベリング酒井) オンライン越しで失礼します。今日は1日長丁場になりますが、楽しく過ごしたいと思います。今日は耳だけというかワークには参加できないのですが、宜しくお願いします。

リノベリング清田) オンライン参加となりますが、皆様のご意見を聴けるのを楽しみにしています。宜しくお願いします。

○お互いを知り合う時間：インタビューシート

メンバー) 大西、徳永、有村

【Aチーム：大西】

普段生きる上で大事に思っていることは何ですか。

ふんわりするなあ。浮かんでいるいるけどどう伝えたらよいか。ふつうに生きてたら社会の都合だったり、街の都合だったり、どうしても予め決められたようなレールに乗せられてしまうけど、自分はこれをしたいんだ、こういうふうな楽しみ方をしたいんだというのをちゃんと持って、行動にすること。なぜかといわれたら、その方が生きている実感があるから。

ご自身の家族や自分の大切にしている人たちに願っていることは何ですか。

僕が死んでも健康的に生きていること。

人生が長い旅路だとすると、いまどのあたりにいると感じますか。

36年分ぐらいは歩いた気がするけど、たぶん理想はもっと遠いところであって、その道中楽しめるんだろうけど、その旅している途中で、もうちょっとこういうことしたかったかなっていう気持ちで死んでいく気がするから、100分10あたりくらいかな。

人生のその場所で今立ち現れているもしくは与えられたテーマや課題があるとすればなんでしょうか。

寛容な心を持つこと。ていうのも、今まで基本的に仕事を一人でしてきたけど、身の回りにいる人たちを受け入れて、一緒に進んでいく気概をもつこと。

偶然や必然からこの場に参加する意味があるとしたらそれはなんでしょうか。

出会いと自己成長

霧島で暮らしていてここに暮らしていてよかった、幸せを感じる瞬間、など印象に残っているエピソードを3つ教えてください。

1つは街中だけけど10分もいけばすぐ自然があること、2つめは温泉がいっぱいあること、3つめは県外から来て友達もいないような状況でも、みんな優しくしてくれる受け入れてくれること。

上記のエピソードから霧島はどんなところ、また特徴のあるまちだと思いますか。

自然や温泉といった自然のリソースが多いながらも、人が優しく過ごしやすいまち。

霧島に暮らしていて誇りに思えること、残念に思うところを教えてください

誇りに思うことはITって言う業種上、多くの方は都会の中心で働いているが、僕は過ごしやすい環境の中で仕事ができている。残念に思うことは、これだけ魅力があるのを地元の人にはなかなか気づかない。

どんな未来でも創り出せるとしたらこれから霧島をどんな場所にしたいですか。

自然が多い、過ごしやすい、仕事をしててもまわりの環境的には理想的で、仕事をするにも、アウトドア遊びとか、そんな霧島に、シンプルに言えばクリエイティブな人を増やしたい。(振り返り)

有村) I ターンの人の発想が良かったかな。地元の人の発想じゃない。

徳永) そもそもどこから来たんですけ？

大西) 兵庫・神戸から

有村) シティーボーイ

大西) 仕事のしやすさは本当あるんですよね。神戸とか東京のお客さんが多いので、出張行くのも空港が近いし。

徳永) どうして霧島に来たのか？

大西) 嫁の実家。子育てもしやすいし、

徳永) 永住するんですか？

大西) うーん、どこか行こうというのも決めてないし、当面は。嫁も小浜で美容室をしますし、

徳永) 小浜いいですよね。缶ビール片手に泳いでたら怒られました。飲んで泳いでたら、警備員がついてて、もう泳いだらだめですよって。でもあそこ面白いですよね。浅瀬で超奥までいける。

大西) 子どもを遊ばせているのもいいですし、浅いので。

徳永) 事務所は小浜にあるんですか？

大西) 僕は国分にあります。引越ししてきたときにとりあえず街の中っぽい賃貸探して、ぜんぜん見てないですけど。で住んで、そしたら便利だったのでそのまま住んでいる。僕が来たときは国分隼人は光が通ってて、、良かった。

【Aチーム：徳永】

普段生きる上で大事に思っていることは何ですか。

未来を意識しながら、今を全力で生きる。今だけでなく、未来を意識しながら、今が未来って言葉が好き。なぜか。災害とかコロナがある中で、僕も39歳なんで、友人の両親とか亡くなったり、死が身近に、多くなってきていて、本当いつ終わるか分からない人生っていうのをリアルに実感し始めたので、今を全力で生きるってなった。

ご自身の家族や自分の大切にしている人たちに願っていることは何ですか。

同じく全力で生きてほしい、身近な人ほど伝えているし、会社の社員にも同じことを伝えている。官界関わる人とも、一緒に全力でやりたいな。

人生が長い旅路だとすると、いまどのあたりにいると感じますか。

時間軸で言えば半分くらいかなと。頂上の一步手前くらいにずっといる感じ。

人生のその場所で今立ち現れているもしくは与えられたテーマや課題があるとすればなんですか。

今、人として生まれたので、人間として今100%生きているこの楽しい世界をいつまでも続けていけるように、楽しみながら努力する。自然に対しても、人間に対しても、環境に対しても、続けていく方法を考えること。子どもの世代も孫の世代も。大きく地球も続いていくように。

偶然や必然からこの場に参加する意味があるとしたらそれはなんですか。

溝辺出身で、溝辺では何人か集まって色んな動きをして、溝辺を楽しみ続けていくまちをどうやって作っていくかというのを、みぞベルというメンバーでやってるんですけど、それがもう一回り大きくなった地域として、霧島の皆さんとつながれるというのは、必然的な流れだったのかなとか、偶然であってもありがたいかなと。一気に世界変えるとか難しいけど、これも溝辺、霧島と徐々に同じ思いの人達と繋がって、広がっていくスタイルが拡大して、まちになっていけば一番いいスタイルだし、他の街にも伝えられればいいのか。いままでやってきたことの延長を試されているときなんじゃないかなと。

霧島で暮らしていてここに暮らしていてよかった、幸せを感じる瞬間、など印象に残っているエピソードを3つ教えてください。

ひとつは、Uターンなので、地元が鹿児島、学生の時沖縄福岡行って鹿児島に帰ってきたんですけど、自分でやりたいことで帰ってこれたこと、福岡で建築をやり続けていくことに違和感があって、鹿児島で地元でやりたいと思って帰ってきたこと幸せを感じる。2つ目は、帰ってきて、同じような同士、今日出会ったメンバーもそうだし、霧島を愛する人達、好きな人達と、仕事とか抜きにしてもいろんな活動ができていくこと。濃い人が多い。3つ目はIターンの人が多い中で、大西さんが言われたように、霧島の仲間もそうだし、Iターンの方々と一緒に何かやろうという姿勢が強い人が多い。誰でも取り入れて、面白いことをやるなら一緒にやろうやって感じで、よそ者だからアレってことがない同士がいることにやりやすさを感じる。

上記のエピソードから霧島はどんなところ、また特徴のあるまちだと思いますか。

自然に溢れているところ。住みやすいまち。人が温かい街。自分の周りだけを見ても。

霧島に暮らしていて誇りに思えること、残念に思うところを教えてください

誇り→重複するけど、人がつながりやすいのと自然にあふれているところ。残念→人と人が繋がっているようだけど、地方地方同士ではつながれていないところが多くて、自分もまだつながれてないこと。自分もまだ溝辺のことばかりを考えていたり、霧島のことが好きなんだけどもっとつながってほしい。とはいえつながれていない人も多い。小学校とか団体に行ったりすると、つながりが薄かったり、人間関係というか。学校内でもつながりがなくなっている。つながれてない人はたくさんいる。皆つながりやすい町がよいかな。

どんな未来でも創り出せるとしたらこれから霧島をどんな場所にしたいですか。

昔の日本のように住みやすいというか、人間同士がつながりやすい、誰が誰とでも、特別な人だけ出なくて、どんな人とも自分の街って人が温かいねって感じれて、つながれる街にしたい。子供たちが県外に出たあとにも、地元が好きだからって行ってUターンが増える街にしたいなと思います。東京行くのも海外に行くのもいいんですけど、最後はやっぱり愛する地元に戻ってきたいなと言う気持ちが芽生えるまちにしたい。

振り返り)

大西) 人とのつながりを大事にされている。もちろん大事なんですけど、仕事とかプライベート関係なく大切にしたい気概。

徳永) 人あってだし、一人で生きても面白くないんじゃないか。人とのつながりが大事にできる方法を考えて生きたいな。

大西) 溝辺は子どものときから繋がっている人って感じですか？

徳永) 僕らの同世代って溝辺に帰ってきている人が多くて、小学校のときの同級生とかと建築設計の仕事をしたり、大工さんが3人は同じ地元だったり、すごいなと思って、子どもをみてる今遊んでいるその子供たちと仕事をする可能性もあるんだよって伝える。いとこ同士も仕事を一緒にする機会が多くて、自分が親の立場だと考えると、自分の子どもたち同士が仕事をしているって凄く幸せなことだなと。

有村) 大西さんはIターンで、徳永さんはUターンで面白い。徳永さんは溝辺愛が半端ない。

徳永) 帰ってきてからですかね。こどもを育てながらというか。でかい事故をしてから、全力で生きたいと思うようになった。

【Aチーム：有村】

普段生きる上で大事に思っていることは何ですか。

3つあります。ひとつは言っていること、思っていることが、やっていることの一貫性を通すということ。2つめが自責。人のせいにはしない。すべては自分。3つめは思考の中に未来がある。自分が未来をつくる。なぜか、特にコロナになってからもそうなんですけど、誰かのせいにする人が増えている。行政が悪いとか、誰が悪いとか、それに乗っかるのがすごくやだし。自分で変えればいいし、自分がすればいいしってのを大事にしている。未来が暗いなら自分が明るくする。自分がやればいいじゃん。

ご自身の家族や自分の大切にしている人たちに願っていることは何ですか。

自分が大切にしているものを見つけて、それを大切に生きて欲しい。ない人もいっぱい入る気がして、仲間だったり、暮らしだったり、大切なものがないと生きること頑張れないなど。無気力な人が多いんで。ないと人生が豊かにならないんじゃない。

人生が長い旅路だとすると、いまどのあたりにいると感じますか。

今スタート地点。今から自分の足で立つという意味のスタート地点。いままでは後継者としての人生でした。これから自分で新しく始める人生。

人生のその場所で今立ち現れているもしくは与えられたテーマや課題があるとすればなんでしょうか。

テーマは自己成長。より大きなことに挑戦しようとするほど自分の成長の必要性を考える。新しい会社を立ち上げたりするので、自分の器の大きさが全てだと。どれだけそれを拡張できるか。

偶然や必然からこの場に参加する意味があるとしたらそれはなんでしょうか。

人は人によって磨かれていると思っている。より多くの人と関わることで、お互いが磨かれれば良いのかなど。

霧島で暮らしていてここに暮らしていてよかった、幸せを感じる瞬間、など印象に残っているエピソードを3つ教えてください。

妻が名古屋で、彼女とのエピソードが多いんですけど、普段の暮らしの中に温泉があること。温泉が特別ではなくて、それが暮らしの中の一つってなっているのが幸せ、といわれました。旅行に行くもんだけど、いまだったらご飯食べ終わって行こうか、それって凄いいね。かけ流しってのも凄いい、資源の無駄使いって。それが当たり前じゃない人達からすれば、凄いいって言う。気づいてなくてすみませんみたいな。2つめは自然の中で楽しむのが当たり前のも。海で仲間とBBQとか、そういうひとつひとつが特別ではなくて、暮らしの中に普通にある。もちろん山の中もだし、すごいなって。あと、年齢性別に関係なくいい人が多い。小浜とかでいると隣の猟師さんが太刀魚を持ってきたりとか、若い人だけではない。おじいちゃんおばあちゃんも。受け入れてくれていることがありがたい。

上記のエピソードから霧島はどんなところ、また特徴のあるまちだと思いますか。

日々の暮らしに自然環境が寄り添っていて、そこから生まれる住みやすさに空間？を感じ

る街。

霧島に暮らしていて誇りに思えること、残念に思うところを教えてください

誇り→旅行や出張できた人の満足度100%。いやだっていた人がいない。自分がアテンドしてるけど、皆満足度高い。あと役所の人が素晴らしい。こんなことしないし。始良とか垂水の人が羨ましいって。なんでうちにはないの？って。心ある人が役所にいないとこんなのはできない。休みなのに出てきたり。残念→どのまちもそうなんですけど、若い人が帰ってこない、中小企業が減少中。過去17年で30%減っている。旧1市6町のまとまりがない。自分も小浜ばかりになっちゃうんで。残念というかもったいない。旧1市6町のつながりが薄い。福山がよく分からない。

どんな未来でも創り出せるとしたらこれから霧島をどんな場所にしたいですか。

企業人として、自ら成功して背中を見せ、後に続く人の希望の光になり、若い人たちが帰ってきたくなる、チャレンジしたくなる環境づくり。アナログな人間関係の中で、最新鋭のデジタルを融合させた希望溢れる街。

振り返り)

徳永) 日々考えて言葉にしているから、頭の中に残るし、活動や行動もしやすい。すごいいつも気にされているんだなど。じゃないとこんなに出てこない。自分がつてのが強い。

有村) 子どもが誰のせいって言ってるのもいやだなど。国のせいとか。日々反省の繰り返し。

徳永) 最近、相手は自分の鏡つてのを意識してて。楽しみですね。

有村) 3人でこうだから、皆でやるのは楽しみ。

大西) 有村さん、飲んでいるときの話すことと一緒に一貫している。妻が小浜でお店をやっている流れでお付き合いしている

有村) チーム小浜って感じ。溝辺と一緒に。明日、新会社の登記が完了する。既に社員は引越しが決まっていて、中古物件を買ってる。横川から引っ越す。企業はこれからなんだけど、人は増えている。

徳永) 住宅として増えていくのはどうなのか？

有村) どう転んでも新築住宅は減るので、いい家を建てるのもそうだけど、いい家を建てなくなるまちを作らないといけない。雇用も作らないといけないし。帰って来いというからには、帰ってきても大丈夫な場所を作らないといけない。帰ってきても仕事無いよではだめ。このままいくと介護と病院だけになる。あとはITとか、どこでも、どこにいても全国相手に仕事ができる。

大西) 島根がそんな感じなんですよね。島根にいても東京から仕事が降ってくる。そうなら面白いな。子供向けにプログラミング教室して。2日間して合計で13人くらい。

有村) 是非、溝辺からも子どもを送り込んで。多分どこのイベントでも必要だと思うので。

徳永) いいですね。是非森の中でやりましょう。

有村) いいですね。こうやってつながれるの面白いですね。

徳永) でも何かやっていきたいですね。行動に移して、止まらないことを意識する。どんど

ん進んでいく。何年後か、いつかやろうだと中々進まないの、やることを意識することは大事。考えているだけでなく、やってみないと。

有村) 答えが出ないですしね、ダメならまたやればいいし。

徳永) ちょっとでもいいから。ゼロからイチに。

○お互いを知り合う時間：インタビューシート

メンバー) 増田、日永田、勘場

【Bチーム：増田】

普段生きる上で大事に思っていることは何ですか。

食べること。一人で食べるのもいいし、誰かと食べるのも良い。就農NPOで活動しているときの経験から。生きる上で大事にしていきたい。

ご自身の家族や自分の大切にしている人たちに願っていることは何ですか。

ストレス無くのびのび生きること。社会から受けるストレス無く暮らすこと。

人生が長い旅路だとすると、いまどのあたりにいると感じますか。

中盤くらいかな。コロナの融資を受けて加工場と販売所を作れるということで、新たなスタートを切ろうとしています。

人生のその場所で今立ち現れているもしくは与えられたテーマや課題があるとすればなんですか。

農村で暮らすとなると、結構今、60歳以上の方が多くて、そのくらいの方ってソニーさんとか京セラさんとか市役所とかに勤めに行く人が多かった。その方々が辞めた後、やめる前とかに農業をリタイアされている方が多くて、これから土地が沸いてくる。でも誰もやりたがらない。それを今後どうして行くか。これを過疎化の勢いは止められないので、これから準備していく、これから活用の仕方を考えていく必要があり、問題ですね。

偶然や必然からこの場に参加する意味があるとしたらそれはなんですか。

自分の子どもとか、長生きしてれば孫ですかね。その子がまた帰ってきたい、このまま住み続けたいという場所とか、市が故郷になるならそれはそれがいいのかな。偶然にもこの場にお声かけ頂いたので、しっかりやっていきたい。

霧島で暮らしていてここに暮らしていてよかった、幸せを感じる瞬間、など印象に残っているエピソードを3つ教えてください。

1つは高千穂がきれい。うちの家から高千穂が見えるんですが、空気が澄んでいるときに見るのが綺麗だな。桜島も見えるんですけど、素敵だなと思います。印象に残っているのは、いまメガソーラーが建っているんですけど、養豚場ができるできないって時に、小浜の漁港の人たちが、必ずといっていいほど梅雨時期になるとカタクチイワシの漁獲量が減ると。涙ながらに話していて。だから僕も上に住んでいて、山と海って繋がっているんだと改めて認識して、そこで環境のことにも気を使っていきたい。それは今でも鮮明に覚えている。最近、面白いプレーヤーの方々がいるので、わざわざ外に出て行かなくても、気持ち的には事足りるかなと。たまには外に出て行きたいとも思いますけど、面白いことができる環境なのかなと。

上記のエピソードから霧島はどんなところ、また特徴のあるまちだと思いますか。

ちよっどいい。自然もあるし、遊ぶところも割りとあるし、凄く丁度いい。このまま発展もせ

ず、いい感じでやっていければ。残すところは残す。霧島は好きです。昨日、薩摩川内に行ったんですけど、薩摩川内も自然があって広い川内川もあるし、武家屋敷も残っているから凄くいいところだなと思ったんですけど、霧島の方が好きかなと。

霧島に暮らしていて誇りに思えること、残念に思うところを教えてください

天孫降臨の地なのでそこは誇りに思っている。誇るべきこと。山もあるし、海もあるそう言ったところは割と少ないと思いますし、伝統産業も割と多いので、誇りに思っている。残念だと思うことは、意外と環境のことに配慮していない。水産業の霧島ですが、関平鉱泉とか。井戸水が水道になっているのもすごくいいことなんですけど、自然エネルギー関係も、他の環境関係に対しても配慮ができていない残念なところ。

どんな未来でも創り出せるとしたらこれから霧島をどんな場所にしたいですか。

発展しても緑のある自然をすごい活かせるようにできたらいいかな。そこって中々ないし、霧島だったらできると思うので、特徴的な山もありますし、場所もあると思うので、山も海も繋がっているという認識が持てるのも霧島が一番持ちやすいと思うので、家づくりにしても、木がないと家が建たない、RCにすれば問題ないんですけど、木のことも意識できるし、家のことも、森のことも、その他の環境も、全部が全部難しいですけど、ちょっとでも生活の中に市民の方が意識できるようなまちになれば面白いなど。空港も近くにあって一番アクセスしやすく、なおかつ自然もあってとなると、これほどいい場所は無いかなど。振り返り)

日永田) 10年近く前ですよ。霧島の食育の活動で、初めて増田さんと出会った。そのとき増田さんが先生で、お米の作り方とか豆腐とか。結構記憶に残ってますね。新鮮だったし。

増田) 一番最初に来られたときは人見知りというか、だんだん変化していくのが僕らも嬉しい。

増田) 結構(農地や山を)相続した人もいるんですが、相続したあとに要らないから、使わない人からすれば負の遺産じゃないですか、割と高く売れるのでソーラーで売ったりして、出回って、あそこの土地は何百万で売れたとか、高く売れるってなっていていつまでも放置している。全然活用していない。山でも丁度タイミング的に50年に1回間伐するんですよ、森って。補助事業があるので。最近あちこちで木を切っているのは、50年経ったから1回間伐して、植林するところもあるし、ソーラーでやっているところもある。そのあと何もしない人もいる。あと5年くらいで考えないと凄く変わってくるのかなと。永水のメガソーラーも最初買った会社が、よそに売却したとか。もともと最初の会社が契約していたから、売却された会社はそんなの知らないみたい。中々難しくなっている。

日永田) ソーラーを半分とか格子状とかでやって、木陰を作って、ソーラーの収益と農業を兼ねてやるとか。そんな日本でモデルになっている地域もあるとか、霧島でうってつけだな。若い人が飛びつくようなことができそうだな。リスクなのは無収入になっちゃうのがあって、月何万円か入ってきて米が食えるってのはいいと思いますね。

増田) 霧島って木質もあるし水力もある。天然林がある。もうちょっと発展的な。

日永田) 上手い具合にやれば資源はいっぱいある気がしますね。もったいないですね。

増田) うちの地域って元気な人が多くて、それがやっかいで。口出す人が多くて。早く引退してくれって。もういいでしょって。粘るんですよ。スパッとやりたいようにやれよって言うてくれたらいいんですけど。まだやれるんじゃないかって。そこが上手くいかないんですけど。口を出す割にはリスクを負わない人が多い。農業の制度とあって、3農家以上ってのが多いんですよ。ひとりでできなくて、3農家で願書出すとか。電柵とかもそうなんですけど。そうすると3人必要になるじゃないですか。僕がその先考えて出しといたほうがいいと思うんですけど、今はんこ貰っとかないと、後になっても誰もいなくなるのに、それを説明してもまだやれるからとか。

【Bチーム：日永田】

普段生きる上で大事に思っていることは何ですか。

ワクワクすることですね。サラリーマンとかやってて、平日いっぱい働いたから土日は寝ときたいとか言う人いるんですけど、そういう人に限っていつもストレスが溜まってたりするのかなとか、普段生活していて思ってた、それより自分から見て活発な人ってのは寝る時間も無く楽しいことをやってるって人が多くて、自分もやっぱり楽しみなことがあると頑張れる、頑張っているつもりも無いけど、よくやってるよねって言われたりするんだけど、自分も楽しいし、ためになる活動の元ってのがワクワクすることかな。

ご自身の家族や自分の大切にしている人たちに願っていることは何ですか。

増田さんと似てるんだけど、自由に制限を受けずに暮らして欲しい子供たちにそうなんだけど、うちは壁とか床に落書きしても何も言わなくて、むしろどンドン書きなさいとか釘も打てとか言うんだけど、そうしないと自分で制限をかけちゃって、本当はできるのにやらなくなっちゃうのかなって思います。そういう教育を続けてきて、こんなこともできるんだって驚かされることもある。それでよかったのかなと感じました。

人生が長い旅路だとすると、いまどのあたりにいると感じますか。

17歳くらいの気分。幼い気分なんですけど。高校卒業して、俺はフリーだって感じが残っている。実際39歳で、来年もう40歳になるんだけど、それでも上の人を見てても、なんか楽しそうにしている人はいるし、まだまだできるのかなってのはある。位置的には底から変わってない感じ。

人生のその場所で今立ち現れているもしくは与えられたテーマや課題があるとすればなんでしょうか。

立ち位置的に、さっき17歳とは言っても、実際は40近いので、そうはいつでも下の人の見本になるような動きとかしないといけない感じになってて、本当はもっとこうやりたいんだけど、まあここは控えておこうと、自分にブレーキをかけ始めているなと感じます。あと体力落ちてると。まあ動けばいいんですけど。増田さんみたいに耕したりすれば、体力付くのかなと。若い人達と接する機会が減ったかなと。たぶん若い人とかから見たら、昔自分が見てたおっさんとあんまり変わらなくなっているんだろうなと思うと、頑張らないといけないな、けど頑張るとイタイんだろうなと、おっさん化ですね。

偶然や必然からこの場に参加する意味があるとしたらそれはなんでしょうか。

なんか普段ワクワクしたいと思っているのを、身近な人たちに同じように、パチンコとか、寝るだけでなく、もっと楽しいことしたいというのを少しでも伝えられたらいいかなと感じます。自分の子どもたちの世代とかも、あんまり良くない街、治安の良くない街っていやじゃないですか。それより楽しい街。この街に暮らしてて、東京とか出て行ったけどやっぱり帰ってこようとか思える街にできるプロジェクトなような気がするから、またそういう思いを持った人が集まっていると思うので、そこで仲間づくりができるのと、実際にそういったプロジェクトができる場所があるってことで、凄く面白そうだなと思いました。

その一部として役立てたらいいかなと思います。

霧島で暮らしていてここに暮らしていてよかった、幸せを感じる瞬間、など印象に残っているエピソードを3つ教えてください。

コロナで家にいるんですけど、庭にプール出して遊んだりするだけでストレスが無い。都会だと一軒家とか買うことできないし、庭とかないだろうし、ストレスフリーな暮らしができること。あと、近所の人もそれに付随してやさしい。おじいちゃんおばあちゃんがいて、子ども達が気軽に遊びにいたり、花が咲いたから見に来いって急に夜、ピンポンとか、月下美人が咲くらしいぞとか、10時11時くらいまで付き合ったり。そういう人も温かい。週末とか温泉が近いから、ちょっと妙見とか日当山とか温泉に浸かっていると旅行に来た感が味わえること。あと海も山もあるから遊ぶところに困らない。都会とかに行ってもどこで遊べばいいんだっけ？てなっちゃうところがあって、買い物とかもネットでできるし、それより海とか山で遊ぶ、遊ぶところがすぐにあるって所がすごくいい。

上記のエピソードから霧島はどんなところ、また特徴のあるまちだと思いますか。

海と山があって程よく都会じゃないけど、別に買い物とかに困らないし、凄く暮らしやすいまち。暮らしやすくて、人もいい人が多いかなって印象があります。こういう場に出てくればワクワクさせてくれる面白い人達がいるし、程よくいいところ。

霧島に暮らしていて誇りに思えること、残念に思うところを教えてください

誇りは温泉の泉質がたくさんあって、すごいなと思って。ちょっと前に「ゆ旅」ってあって子どもを横綱にするために、5~60個回って、そのときぜんぜん飽きない、よくこんなバリエイティに富んだ温泉があるなと、それでもぜんぜん回りきれてない、まだまだ遊べる感じがあるし、よごく良いところだよって言える。あと空港も近いので、これからテレワークができる時代だと、日本の中でもこんなにいい所はあまり無いんじゃないかなと思う。残念なことは、二極化しているような気がして、遊び方を知らない大人が結構目に付くかな、ギャンブルだったりとか、変にお金は持っていて、パチンコばかり行っていて、会社の人多いんだけど、もったいない人多いなと。

どんな未来でも創り出せるとしたらこれから霧島をどんな場所にしたいですか。

楽しいところなんだけど、多分広すぎて、皆が楽しめるところってなくて、霧島の上のほうにいる人は飲みに来るの大変そうだし、こっちの人は上広すぎてよく分からんってな点もあるし、交通手段なのかな、いまは自動運転とかでてきているから、好きに色んな場所を行き来できるような仕組みができたりして、皆楽しみたいんだけど楽しめないことがないような、それがあって、皆飲みに行くと、帰りに霧島の温泉に寄って、どっか回って帰るとか、今の最先端の技術を使えば、できるんじゃないかな。

お試しの地域とかに率先してやってもいいんじゃないかなと思います。政策的な実験都市とかあるよね。妙見とか旧線路跡とかあるよね、川沿いに。ああいうとことか復元して、どっかは廃線跡を使って自動運転を走らせたりしているから、レールに乗せると難易度下がるから、そういうのができたらいいんじゃないかな。いいお金の使い方をしてくれたら。

振り返り)

増田) こどもには自由にさせてるってことですか？

日永田) 人の家？には書いちゃいけないよ。迷惑かけない程度に。それが当たり前になっちゃうと危険なことになりますね。

増田) うちも子どもをイベントとかでしょっちゅう出していたんで、やっぱイベントとかって知り合いが多いじゃないですか。こどもがどこ行っても友達だと思ってて。どこ行ってもフレンドリーだし、イベントのときだとある程度、場所が確保されてるじゃないですか。イベントじゃないときでも自分の庭みたいな感じであちこち行くのが怖い。

日永田) まあ良いことですね。かわいがられますよ。

日永田) 17歳くらいの気持ちって20歳に変えても良いですか。お酒が飲めない。

増田) 成人したばかりのフリーさということで。

日永田) 早いですよね。30代なんだったんだろうって。

増田) 自分今年38なんですけど、めっちゃ早い。ここ10年ぐらいあつという間。今年も6月梅雨で動けなかったんですけど、もう夏だ、もう夏終わるみたいな。明後日から9月ですもんね。最近徹夜ができなくて。次の日機能停止。

日永田) あと朝起きるのが早くなってきて。今日とか4時半に起きたり。一時期背中が痛くて寝れなくなって、筋肉の衰えで、それから腹筋背筋をして、寝れるようになった。嫁さんに言ったら、妻はヨガとかストレッチとかやってるから、いつも言ってることだと言われ。

【Bチーム：勘場】

普段生きる上で大事に思っていることは何ですか。

日常に疑問を持つこと。仕事でもプライベートでもそうなんですけど、去年こうだったからとかでなく、それに対してなぜこうなっているのかを考えて、自分の中で落とし込んで、なるべく意識してやりたい。

ご自身の家族や自分の大切にしている人たちに願っていることは何ですか。

一番は健康で暮らせること。のびのび暮らすこと。選択肢をたくさん増やしてほしい増やせる環境とかつくりたい、狭い中で生きて欲しくない。色んな選択肢の中から自分で選べたり、自分で作り出せたり、自分の生きがいを持って暮らして欲しい。

人生が長い旅路だとすると、いまどのあたりにいると感じますか。

22の大卒です。最初に会社に入ったときの違和感というか、組織に入ったときの全く自分が真っ白な状態、普通の一般人からある組織に入ったときにある違和感は忘れちゃいけない、という気持ちを持ち続けたい。

人生のその場所で今立ち現れているもしくは与えられたテーマや課題があるとすればなんですか。

去年こうだったからとか進むときもあるけど、そうではダメなとき、乗り越えなきゃ無きゃいけない障がいをひとつひとつクリアしていくこと。

偶然や必然からこの場に参加する意味があるとしたらそれはなんですか。

今回は霧島の5年後10年後の未来について、考えていくということなので、凄く大事な会議だと思ってますし、自分が出ることで、皆さんと知り合えることが自分にとっての財産でもあるし、これから5年10年霧島の明るい未来を作っていけることに、うれしいと思っているし、行政として携わる中で今後出てくる難しい局面とか、宮之原と先回りして考えていければ。

増田) 支所にいるより本庁のほうが仕事しやすいんじゃないですか？支所だとぜんぜん通らないですね。農政の相談とかは、本庁の課長に直接来てくれって言われた。

勘場) 支所で持っている自治っていうのが限られていて、予算規模も少ないので、あくまでも本庁が取りまとめて予算を要求する流れになるので。

霧島で暮らしていてここに暮らしていてよかった、幸せを感じる瞬間、など印象に残っているエピソードを3つ教えてください。

鹿児島市内出身で、大学卒業して、こっちに来て今9年目になるんですけど、ご飯が美味しいです。市内にいるときも、チェーンにしか行かなかったっていうのもあるんですけど、こっちに来てチェーン店もありながら、個人でお店せされているところの方がよっぽど美味しかったり、霧島に暮らし始めて最初思いました。あと、日永田さんがペチャクチャナイトを鹿児島市内ですていたときに1回お会いしたことがあって、そこから街に興味を持ち始めて、宮之原とガーデンプレイスをやり始めてから、有村さんとかガッと色んな人達と知り合う機会が増えて、霧島めっちゃ面白い人多いじゃんってなって。逆にしなかったら知り合

いはいなかったのかなと。暮らして良かったのは面白い人が多いって思います。公園とかよく行くんですけど、天降川の公園とか、城山の公園とか、自然が多くて、子どもがすぐ川遊びができたり、すぐ近くでできるのはいいなと。子どもはすぐ石を投げたがる。そういうのが身近にあると良いかなと。

上記のエピソードから霧島はどんなところ、また特徴のあるまちだと思いますか。

やっぱり自然ですね。山海川が身近に感じられて、高千穂も何回か登るんですけど、あれだけの体験を空気を身近に感じられるのはいいところだなと。

霧島に暮らして誇りに思えること、残念に思うところを教えてください

誇りに思うことは天孫降臨の話と霧島神宮があるところ。残念なところは最初来たとき、まちづくりとか言うよりは大きな企業があるイメージで、面積も人口も2番目で、安心感があるというか、それに違和感があって、他に大事なことがあるんじゃないか、現状に満足していることかな。

どんな未来でも創り出せるとしたらこれから霧島をどんな場所にしたいですか。

商工・観光畑にいるんですけど、観光客を増やすというよりは、住んでいる人の心の満足度というか、住んでていい街だなと思える、数字で計算しづらい数値化できないけど、今日来てなんか良かったとか、寝るとき明日楽しみだなというワクワクする気持ちをもっと増やせたらいいなと思います。

振り返り)

増田) 現状に満足していることはある。60代とか後半の人とかまさにその世代で、行政に勤めるか、ソニー京セラに行くのが子どもがステータスみたいな感じで、70代の人達は戦後いったん外に出てるんですけど、その子供たちは京セラ、ソニーにいて、親心なんですけど、リスクなこととして欲しくない。

日永田) 外を知らないんでしょうね。楽しい思いしかしてない人。

○お互いを知り合う時間：インタビューシート

メンバー) 白水、奥野、松本

【チームC：白水】

白水) 結構いろいろ苦しんだ結果、いやもう世間体とか気にしてもしょうがないし、やりたいことを全部やろうと思った瞬間にめちゃくちゃ人生が楽しくなって今に至るという感じなので、自分を大事にしようと思っています。自分勝手ではありますが。

ご自身の家族や自分の大切にしている人たちに願っていることは何ですか。

願っていることはやっぱり変な我慢をしてほしくないなというのは思っています。自分がいろいろ我慢して自分らしさを押し殺していた、全然楽しくないし何やりたいのか自分がどうありたいのかもやもやしてた感じ。できるだけ押し殺すような環境にしたいし、ちょっとでもいいんじゃないって引き上げられるようになったらいいな。

人生が長い旅路だとすると、いまどのあたりにいると感じますか。

難しい質問ですね。ゴールはないんだろうなって思ったりして、やりたいことが次から次に増えていって。現在地がわかんないですね。

人生のその場所で今立ち現れているもしくは与えられたテーマや課題があるとすればなんですか。

あるとすれば、ずっとやりたいこと何でもやろうといいつつ軸が自分の中に通っていて、頑張りたいと思っている人に環境を整えていくことがテーマ。横川に出会ってから世代にずっと伝えたかったことが、世代関係なくやりたいことがある人に環境を渡していくこと。その人が歩んできた過去とか失敗とかを明日につないでいくお手伝いをしたい。これは横川に出会ったからできること。

偶然や必然からこの場に参加する意味があるとしたらそれはなんですか。

私霧島に4年前に引っ越してきたとき嫌いだったんですよ。ずっと街中育ち。霧島はずっと中途半端だなと思ってたんですよ。それが横川に出会ってから徐々に、霧島スイッチっていうプロジェクトに第1期に参加してから徐々に霧島市の面白さに気づいてだんだん熱がでてきた感じ。でもまだ中途半端だなんて思います。その段階でここに入れてもらえたってことは思し召しというか霧島市をもっと知りたいと思ったときによんでいただけて運命を感じています。

霧島で暮らしていてここに暮らしていてよかった、幸せを感じる瞬間、など印象に残っているエピソードを3つ教えてください。

時系列で行きます。1つは霧島スイッチに参加しておもしろいことしようとしてる人の顔が見えるようになった。そこから霧島おもしろいっておもったかな。2つめはやっぱり横川との出会い。最初田舎だなあとしか思ってなかった。横川の人たちが自然と草刈とかしてる意味が分からなかった。街づくりの仕事しておきながら理解できなくて。その人たちと話

していくうちにまちを愛情かけて育てていく感覚が分かった。3つめは最近なんですけど1つの地域にはまった、もっと好きなのところまでできた。

上記のエピソードから霧島はどんなところ、また特徴のあるまちだと思いますか。

霧島はすごく大きいじゃないですか。旧なになに町とかエリアごとの特徴があって牧園横川も違うし、国分横川なんて全然違うし。まちの中で観光から買い物から完結するなって思って。その役割分担をすごくできるようになった、すごく満足する。いい街だなって思うようになった。すみません、まとまらなかったけど。特徴については、いろんな特徴があるっていう特徴。色で例えると赤とか青とかじゃなくて虹色。エリアによって特徴が違う。いろんな特徴があるのが霧島。

霧島に暮らしていて誇りに思えること、残念に思うところを教えてください。

誇りに思えることは、難しいな。結構、霧島って観光的に有名というか。霧島に観光客くるとなにもないよっていいながらも一日連れまわせる人が多いというか。スマートな人が多いかな、ちゃんと自分の霧島を愛してる人が多いかなっていうイメージ。残念に思えることはよそ者感がある。視野がせまいところがあるかな。

どんな未来でも創り出せるとしたらこれから霧島をどんな場所にしたいですか。

がらっと大きく変える必要はないなと思って。それぞれのまちに住む人が、うちのまちはコレなら負けないみたいなそのまちのカラーみたいなのを地元の人が意識して。例えば横川なら地元の人がこれなら負けないっていうほかのまちのひともこれはかてないっていう共通意識。役割分担がはっきりできててお互い認識できてる感じ。霧島市街の人を引き付ける感じ。

振り返り)

松本) むずかしいですね、トータル何分くらいですか

白水) だいぶ追われますよ

松本) 振り返り5分ですもんね、全体的に人の話が多かったですね。場所の話でてなかったですね、地域の話出たけど。神宮とか温泉とか焼酎とかいわゆるザコンテンツが出てこなくて。

白水) そのまちのものってこれ言ったらもともこもないけど、日本全国似たようなものあるもん。別府に住んでたけど別府には勝てないもん、生かすも殺すも人次第。結局人次第。

松本) まあでも、どうなんですかねマインドが似てるから合うのか、合ってからマウンドが変わったのか。

白水) マインドが合うからですね。

松本) 前提条件にそれがあってもいいかもしれないですね。がつつり人って感じしましたもん。白水さんの周りに人が集まってくれるのもそれででしょうねと思いました。

奥野) 自分らしさを大切にすってっていうのがすごいやりたいことを全部やるっていうの。僕もやりたいこと全部やりたいっていうので脱サラしてやってるので共感できるというか、魅力のある方だなと思いました。

白水) 私に振り回される旦那大変だなって。

奥野) でも旦那さんもやりたいことしてるんじゃないですかね。

白水) 最後に言った結局どこも似たような感じじゃんっていうのは正直な本音で鹿児島に帰ってくる前、日本全国のまちづくりを見ようと思って北海道にもいきましたいろいろ模索しましたがほんとに似てるんですよ。ここのまちもこれからの将来守っていきたくて、古き良きをまもっていきたくてあるけどどこにもあるんですよ。そのおもしろさをどの面から切り出してくるか、人の目線によってどれだけ地域が生きてくるかがね。

松本) ガストロノミーの概念もそうですけどおいしいって当たり前だよ、それ+ α があるからいいんですよ。それってすべてだなって。温泉もそうだし温泉プラスワーケーション施設とかキャンプ場とかあれば霧島独特だよとか。+ α を生み出せるのは人なんだよなってことですね。おもしろいですね。

【チームC：奥野】

奥野さんが普段生きる上で大事に思っていることは何ですか。

大事にしたいと思っているのは白水さんおっしゃってましたけどやりたいこと感じたことで動けるようにしたいって思います。サラリーマンの時時間に追われて好きなことなかなかできなかったの。今やりたいことできるように脱サラして活動してます。

ご自身の家族や自分の大切にしている人たちに願っていることは何ですか。

僕が楽しくしてることで周りが楽しくなればなって思ってます。自分が楽しく生活するように心がけてます。ただ現実はどうかって言われるとじぶんだけかもしれないけど。ちょっとまだ全然やりたいことと現実が伴ってないのが実情、つらいところです。

人生が長い旅路だとすると、いまどのあたりにいると感じますか

今2回目のスタートです。リセットかけてゼロに近いところにいます。

白水) ちなみに1回目はうまれたとき？

そうですね、生まれて敷かれたレールをいくじゃないけどそれで平々凡々にいくのでいいのかなと思ってリセットかけたところですね。

人生のその場所で今立ち現れているもしくは与えられたテーマや課題があるとすればなんでしょうか。

日常を僕が好きなことやりつつも人をどう楽しませるかかって考えてるんですけど、家族が一番に考えつつみんなが楽しめるように創作活動だったりコーヒー屋が展開できなきゃいけない。それを模索してるところです。むずかしいですね。

偶然や必然からこの場に参加する意味があるとしたらそれはなんでしょうか。

ちょっとパスいいですか、

白水) じゃあ後半で。

霧島で暮らしていてここに暮らしていてよかった、幸せを感じる瞬間、など印象に残っているエピソードを3つ教えてください。

霧島は自然が豊かで、山が好きだったので越してきたんですけど、海も近くにあつて。ほかの都市に比べたら田舎だけど自然豊かで越してきてよかったです。活気のある人っていうか楽しい人が多くて、縁もゆかりもなくきたけど宮之原さんをはじめ楽しいことしようとする人が多くて人脈が広がったのが幸せに感じますね。ごめんなさい2つで。

上記のエピソードから霧島はどんなところ、また特徴のあるまちだと思いますか。

霧島はまだ魅力がたくさんあるというか表にだしきれていないポテンシャルが多いというか。手を加えられるところがある。キャンプ場に然りなにかをプラスすることで魅力が上がるんじゃないかなと。逆に自然すぎていいのかもだけど、もうちょっと手を加えても楽しくなるんじゃないかと思います。

霧島に暮らしていて誇りに思えること、残念に思うところを教えてください

誇りに思えることは面白い人が多いってところ。まちをいかに楽しくするかって。一年間接してきた中で活気にあふれる人が多い。多いかわかんないけど、そんな人たちが目立つ、

活躍してるまちだなんて思います。残念なところは、、パスで。

どんな未来でも創り出せるとしたらこれから霧島をどんな場所にしたいですか

ここに集まった人だけでなく楽しいことしようって人いると思うので、そのアイデアを世間に出せる場所が作れば、表現できる場所があればさらにたのしい他にないまちになるんじゃないかなと。そういう場所が今回のまちづくりの中でも作れば魅力ある霧島市になるんじゃないかなと思います。

偶然や必然からこの場に参加する意味があるとしたらそれはなんでしょうか

ぼくがここに来させてもらったのが、クレイジー要素でノミネートされたんじゃないかなと。そこらへんの突飛な意見、みんなを刺激できるような発言ができればいいなと思います。バンバン言っていきたいと思います。

白水) ちなみに3つ目の誇り思いつきました？あと残念に思うところ

奥野) 残念に思うところはまちの人の考えが固いというか、営業やってた経験じゃないけど営業仕掛けて移動販売もマイナーなんであんまり受け入れてくれないというか。新しいことに対して挑戦しようというか若い人らがやろうとしてることに土地の人が協力的じゃないというか敬遠しがちな印象です。

白水) すごく動きたいんだなって印象を受けました。実際に住みながら霧島の好きなところをどんどん見つけてるんだらうなと、もっと仲間増やしたいんだらうなって感じました。

奥野) 実際に生活もかかっているのだからそれなりに稼がないとなんですけど、そこらへんがうまくできてない。自分も楽しみながらの日々がなんかないかなと探しながらなんですけど。去年に比べたらフットワーク重くなりましたね。状況も変わってしまったので。

白水) 私も残念なこと、たぶん霧島で面白いことしてる人が目立つイコール何もしてない人が多いのかなと。それで出てきたものが目立つ。鹿児島市はまたちょっと違う。目立つけどそれなりに動く人の絶対数が多い。全体的に底上げされてる感じがある。ポッと出の人がいないかな。私みたいにここ最近始めた人が目立つ感じがしない。霧島のいい面でもあるんだけど。

奥野) 好きなことやりたいからやってるというか。もっとアウトドアとか自然とか最後にやりたいこととかもある。

【チームC：松本】

普段生きる上で大事に思っていることは何ですか

一言でいうと楽しく生きる。なぜならなにか大きなことやりたいとか人生を豊かにしようと思ったときに継続って必要だなって思った。そのためにたのしいことが必要。楽しいことしたいというよりは人生豊かにするために必要とかマインドとか要素が楽しむこと。言ってもまだまだ楽しめてないですけどね、しがらみとか。会社では厳しいので。

ご自身の家族や自分の大切にしている人たちに願っていることは何ですか

重複するけど楽しんでほしいですね。楽しむ先に人生豊かにする方法がある。会社にいる人たちは実績を残してほしい。技術や時間を豊かにしてほしい。

人生が長い旅路だとすると、いまどのあたりにいると感じますか

歳を考えると折り返しって言葉がずっと頭にありますね。折り返しよりもうちょう先に進みたい。仕事を公私混同しろっていうんですけど仕事が人生で、人生が仕事で。仕事と人生の境目をなくして人生を楽しくしようよというのが会社の考え方としてある。僕がやってる仕事は現役で50まで。50になったら戦線離脱せざるを得ない。となったら人生後10パーくらいしかない。みんなになんでそんな生き急いでるのって言われるけどこれくらいでいいと思います。

人生のその場所で今立ち現れているもしくは与えられたテーマや課題があるとすればなんでしょうか

今は組織の在り方の部分大きい。フリーランスを集めているいろんなプロジェクトを会社にしたことで言いたいことが言えなくなった。今後どうしたらいいのかってところで普通の会社に近づかなきゃいけないのが残念。課題です。霧島市を一つの会社としてみたときどういうかかわり方をするのか、統率をとるのか材料にさせてもらいたい。

偶然や必然からこの場に参加する意味があるとしたらそれはなんでしょうか

結局僕も根本は人だと思う。人とつながれる一つのプラットフォームになれたらいいなど。毎年毎年人が入れ代わり立ち代わりあるからいいプラットフォームになれたらいいなど思います。

霧島で暮らしていてここに暮らしていてよかった、幸せを感じる瞬間、など印象に残っているエピソードを3つ教えてください

一番は人に出会えたこと。宮之原さんとか前職での部下とか人生を変えてくれた人が国分で出会えた。二つ目はキャンプです、毎週キャンプしてたんですけどそれが近くにあるのは良い。下井海岸に歩いて10分のところに住んじゃいました。そしたら行かなくなっちゃって。キャンプ場が多いのは幸せに感じますねやっぱり。もう一つは、こんな僕を拾ってくれてありがたいなって思いますねやっぱり。面白そうですねって人が来てくれてうれしいですね。鹿児島市でやっても人來ないかもです。霧島市で進んでなかったからコワーキングって言葉につられてくれた。遅れててよかったなって。

上記のエピソードから霧島はどんなところ、また特徴のあるまちだと思いますか

それこそ発展途上っていうのがまさしくかなと思います。みなさん考え一緒かもしれないけどやれることもっとあるよねって。さっきの温泉にもう少し価値つけたらとか、それは人も一緒だなと思って。僕一人では面白くなくても宮之原さんと一緒なら面白くできるとか白水さんも奥野さんともそうですし。ここにきているメンバー以外ともやっていきたいと思う。それができるのはまだ未発展だから。のびしろしかないですよ。

霧島に暮らしていて誇りに思えること、残念に思うところを教えてください

誇りに思えることは行政の職員が全員とは言わないけどアグレッシブだなと思います。鹿児島市の方とも話しますけどいいですよ。それは誇りです。だから変われるなって。残念なことは、これから先やりたいことにもつながるんですけど公共施設とか面白い場所のコンテンツが活かしきれてない。そこを活かそうとしたら、何かあったら困るとか言われて。魅力がありながら保守的な人たちが幅がある。商店街の人たちは意外とポジティブ。若い子たちを応援する感じ。でもまだ周りが進んでることに追いついてない。ぼくたちがそこできながらになれると少しずつよくなるのかなと、そこが課題。意識改革じゃないけど。

どんな未来でも創り出せるとしたらこれから霧島をどんな場所にしたいですか

日本一のワーケーション施設都市に変えたい。福岡と沖縄を掛け合わせた感じにしたい。都会と自然がありながら企業が生まれてそういう人たちの力で飲食店も効率的な運用ができるというか。ITでもツールになるのって使いこなせる人たちがいるから。それでお金が生まれ出せばいい。キャンプ場を含めた感じにしたいな。

振り返り)

松本) 言いたいことの10分の1しか言えなかったな。

白水) 後々考えるとあれってこと言っていたりする。勢いで。

奥野) 楽しいことしたいっていうか前面にだしつつも、いろいろ周りの成長まで考えて俯瞰的な視点を持たれてるなって。さすがだなと思いました。自然とまちの共存じゃないですけど魅力のあるまちなので松本さんが目指されてるまちづくりって霧島は最先端になれると思って感動しました。

松本) 言ったもん勝ちかなって。国分海水浴場がウォークインフェスタやったり映画祭とかやりたい空気感が出る。アウトドアを軸にコワーキングをしたりっていうのを試算します。

白水) 松本さんばいなと思いました。ITで筋通してやってきてるから視点が入っていてそういう人って霧島少ないと思うんですよ。私のコンプレックスは専門職がないってことなんですよね。まちづくりって専門家って言われると、、ライターならいけそうだけど

松本) ここにきてる人って器用貧乏ですよ。得意なこと聞いたら2, 3個挙げてきそう。僕もIT以外は特質したものはないんですよ。マーケティングとロジカルシンキング少しかできるくらい。俯瞰してものを見られるからまちを見られる。俯瞰しなきゃできないこと。

白水) 霧島広いのがマイナスでとられることが多いけど私はプラスだと思う。

一言ずつ感想を

大西) 質問が考えさせられるというか、ある意味抽象的だったので、頭の整理になってよかった。

奥野) 自分の整理もですが、他の人がどう考えているのか知れて、どんな感じでまちづくりをしていきたいというのを知れて、良い機会でした。

日永田) 疲れたけど面白かったです。始まる前に比べて、思考が同じ方向に向き出したなって思いました。

増田) 漢字がぜんぜん書けなくて。いろんな方の考え方を聞けたので勉強になったし、刺激になりました。

徳永) 頭をフル回転してしゃべったので、すっきりして今後の取り組みが楽しみ。あと3人の中で共通点があるなと感じたのでこれからは楽しみだなと。

松本) 1分半くらいで一項目しゃべらないといけないということで、言いたいことの10分の1くらいしか言えなくて、そう考えたら自分の中で整理ができていないんだなって改めて思われました。最終的な振り返りのときに、僕が言いたいこと伝わってるかなって、自分が考えていることの言語化をもう少しちゃんとしないと思ったのと、チームCは結局人だっとなって、人の大事さっていうのを改めて感じた機会でした。

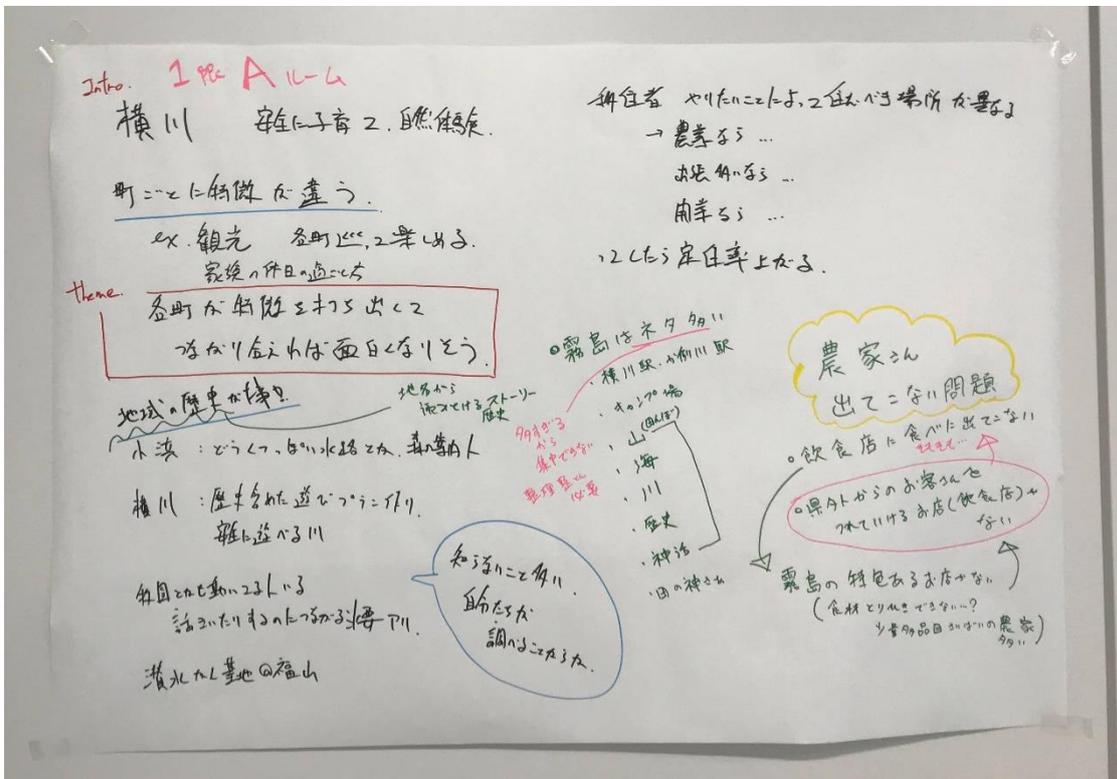
白水) その話、もっと深掘したいというのができて、今日の懇親会でもっと掘ろうと思いました。あと普段から1分半で話すって中々考えていなくて難しかったけど、逆に自分がそんなことが、口から出てきた意外なこともあって、そんな気づきもありました。

有村) 振り返りの時間が取れたんで、もっとこれから話していけば、できることもあるんじゃないかと、楽しみだなと思いました。

勘場) 書くのに慣れてなくて、日永田さんに渡したときにぜんぜん読めなくて。二人の話を聞いて参考になりましたし、自分たちもしっかり頑張っていかないなと思いました。

○選択セッション①

Aルーム) 市内各エリアを循環する人の流れ (消費行動) × 中山間地域のリノベーションメンバー) ●白水、●有村、増田、大石



～プロジェクトプレゼン～

●白水

キーワードとして、域内観光とか域内消費について話したくて、1市6町がくっついた霧島市を人が循環しながら、ちゃんとお金を落としていくみたいな、そういう仕組みがないかな?とか、できないかな?を考えたいなと思ってます。背景としては4年前霧島に引越してきて、色んなところに出かける中で、各エリア特色が違うなと思ってて、横川町と福山町ぜんぜん違うし、なんか面白いなと思うことあるけど、やっぱり消費行動が国分隼人に集中してるし、端に行けば行くほど人が減っていくし、そこらへんをちゃんと経済が回るように、人の流れ作りがしたいなって思います。

●有村

やりたいというか今からやるんですけど、中山間地域のリノベーションをしたいんですが、小浜のエリアは人口500人くらいで、お店も無い、インフラも無い、かなり消滅しそうな感じの場所なんですけど、そこを自分たちで会社移したり、いろんなお店に出て行くんですけど、そこでひとつ中山間地域でもこういったことができますよっていう形を作りたい。そういったので一つモデルができればと思うので、アイデアください。

～選択セッション～



白水) 私からどんな話をしたいか話すと、私がここ1年くらい横川に関わって、一番最初は田舎だなとしか思わなかったけど、やっぱり知っていくと、霧島市内でもここまで子どもを安全に遊ばせる場所ないよって自然遊び体験のプロが言うくらい遊びやすい川があったりとか、ちゃんと生き物観察があったり、知れば知るほど特色があるなと思って、お隣の牧園とか溝辺とか何かしら特徴があったり、やっぱり街ごとに、もともと違う自治体だったので、各エリアで特徴違うよなと最近思ってた。でも意外とそういうところを知らないんですよ。例えば霧島の観光といえば、霧島神宮とかに集中すると思うんですけど、実をいうとあそこらへんでできない遊びが他でできたりするし、霧島って観光の通過点になっている。とりあえず空港降りて、霧島神宮行って、その他に行くみたいな。そうではなくて、霧島市内で循環して、霧島で泊まって、お金を落としていくみたいな流れがきっとできるよなと思ってます。これは観光だけでなく子育てとか、家族のお出かけとかも全然ありで、もうちょっと情報発信するのか、エリア毎に送客する仕組みができれば良いのかなと最近思ってます。

有村) 言いたいこと全部言ってもらったみたいな感じですけど、旧1市6町が特色を出して、独自の価値を作って、繋がっていくっていうのがいいと思っているので、ここで言えばこれだよな！って言うのがあればいいと思っています。今僕がやっているのが、奈良に建築史家っていう建築の歴史を調べる学者「本間」がいるんですけど、その方を小浜エリアにお呼びして、いま小浜周辺を調べている。来月末、しれっと霧島市全域を回るので紹介したい。どう

いうことをみてもらうかというのと、どういった歴史、経緯で、農地も面白くて、昔はどういうの育てたのか、小浜ってのは元々こんにゃくで、米が育たないから。その延長線上に未来があるんじゃない？っていうのを今やってもらっていて、面白いと思ったのが字と地図をあわせたもので、昔は字ってのが昔の特徴を現していて、こういうところからやっている。そこに歴史を紐解くし、ただの畑だけでなくその水源とかも面白くて、池とか、他のエリアにもあるんですけど、そういうものを昔の人が時間かけて作ったもの、歴史ってのが本当面白くて、皆まずは知って、それを伝えるってのが大事。水源を確保するのが鹿児島は結構大変だったという。

増田) うちも鹿児島島のほうでも長いほうの田んぼなんですけど、水源が10キロくらい先なんですけど、元々神職さんがお殿様にお金を借りて、開田していった。て言う話なんですけど、それが本当かは分からない。みんなその子孫の人が話すんですけど、微妙にずれてて、本当のところを知りたいところです。



有村) 水源めぐりツアーとかしたんで、小浜で。ドローンで撮影したりとか。その途中で洞窟とかあったり、それが面白い。

増田) 田んぼの水路ですか？

有村) こういうのを作るしかなかったっていう歴史があったり。図書館行ってみんなで本あさって読んだり。そういうところをまずは抑えないと、多分僕らの代が分かんなかったらもう。多分ツアーとか組んでも取ってつけたようなツアーになっちゃうんで、その地域の文化とか歴史とか継承して、伝えていかないと、独自のものはできないんじゃないかと。9/25の前一週間来てもらうんで、横川とか霧島とか見て回りたい。

白水) 似たようなことを横川の人達とプラン考えてて、横川はとにかく安全に遊べる川があるので、でも全然手付かず状態で、それもいいんですけど、ちゃんと環境保護を視野に入れた自然体験ツアーフットパスコースみたいなのを作ろうとしていて、ただの自然綺麗だね、楽しいねだけでなく、具体的に言うと生き物の専門家の方と、地質で桜島ミュージアムの福島さんと、歴史で東川さんと、地元でガイド育成も含めた横川でしかできない歴史を含めた自然体験プラン作りができないかと考えている。金山があるから、横川は川があったから物流が運べるから、あれだけ金山が盛り上がり、駅が来てというのがあるので、川と金山みたいな地域の歴史をちゃんと紐解いてから企画を作っていくのをやりたい。

増田) 森の案内人って人がいて、みうらゆたかって人で、本も出していて、小浜に関わってもらっているんですが、すべてそのエリアに生えている木とか、植物とかすべてストーリーがある。ていうのをもとにツアーをしてくれる。この木がこのエリアに生えているってのはどういう意味があるのか、木によっては凄く豊かな土壌を表しているとか。この人小浜だけじゃもったいないと思ったので。他のエリアもそれぞれに山とか森が持つ価値とか特色ってあると思うんで、ちゃんと見つけてもらって。この人、ツアーガイドの育成もするので。紹介します。

白水) 牧園は別の人やってるし、こういう話は会って聞かないと知らないし、お互い違う動きを、違う形でやっているみたい。たとえばみうらさんって方が霧島全部を監修してもらってのも、一貫性があったほうがいいと思いますね。ほかの地域で動いている人達の話も聞いてみたいですね。

増田) 福山は分からないですね。福山は昔馬を育ててたから、それを全部お城に献上してたという歴史があるみたいで。

白水) このあいだ偶々福山に潜水艦基地があるってのを聞いて、全然知らないですよ。

有村) 知らない知らない。自分たちが知らないことって多そうですね。1市6町ですもんね。でかいわ。

白水) 霧島が広いのってあんまりプラスに語られること無いけど、やっぱ広いからこそこういった話が出てくるわけで、プラスに全然持っていける。

有村) 解釈次第。あとは自分自身がどれだけ知るか。そうすることでアイデアが出そう。

大西) 結果的には各エリア人の流れの循環をつくるってのは、観光だったり、具体的なプランに落とし込んでいくんですけ？

白水) 小浜と横川はすでにプランを作ろうとしているので、他のエリアも役割分担して、送客とかそのへんを意識したプランを作ったほうが良いなど。もう一個あって、霧島って移住人気も高く、実際実績も持ってる。移住したい人の、その人がしたいことによって、本当に住むべき土地って霧島の中でも案内する場所って違って。本当に農業したい人が住む、たとえば増田さんが住む場所とか、就農したいって人が住みたい場所と、リモートワークでちょこちょこ県外にも東京にも行くんだよねって人だったら、溝辺、横川とか高速も通っているので、凄く便利だと思うんですよね。移住者への案内ってのも、その土地土地の特色を知

って、その人がやりたいこときいて、やった方が絶対に定着率あがると思うんですよ。



増田) 全部回って詰め込んで、判断任せる。みたいな。

白水) 1泊2日回ったくらいでは分からないじゃないですか。景色いいとか。農業以外にも開業したいと思う土地もあるだろうし。

有村) ワインが飲める飲食も増やしたいな。東京の人を連れてきたらワインなんで。あと美味しいパンと。

大西) 県外からのビジネスパートナーが来たときどこに連れて行ってるんですか？

有村) 人によるんだけど、魚だったらほどほど、お肉だったらひごや。イタリアンだったらトラットリアシン。でもワインが少ないんで。

大西) 来た時にああいいところだなと思える経験とか場所とかコンテンツが整理されているといいですね。

有村) 魅力に気づいていないって点で、霧島(牧園)に名古屋からやってきたモリーノってレストランあるじゃないですか。何回か行くんですけど、1回、かぼちゃの花のフリットを出してきたんですよ。でも本当はズッキーニなんですけど、なかなかズッキーニって育ててないから、農家の方からかぼちゃの花を分けてもらって、食べさせてもらったらめちゃくちゃ美味しかったです。農家の方から名古屋から来たシェフに言われたことは「なんでこんなもの使うの？」って。だから自分たちが価値が分かってない。いつも捨ててるものなんだけど、美味しく調理することで実は価値になる。食材でもまだあるんじゃない？っていう。

増田) まず農家が食べに行かないんですよ。ぼくもなるべく新規就農者の方に食べいったほうがいいっていうんですよ。なるべく食べに行って自分(農家)がどう食べて欲しいかは先

の問題として、野菜がどう使われているかってのを食べてみて、見てみるっていう。そうじゃないと絶対いい物は作れないっていうんだけど、中々行かない人が多い。もったいないんですよ。だから農家に発展が無い。いくら料理人が求めてもそこが無いから、そこに特化した産業にすればいいんだけど。若い人も多いです。

白水) なんで行かないんですか？

増田) 多分、時間が無いとかお金がとか一番。私は食べるの好きなんで。あと取引無くても紹介してくれるんで。新しい取引ができるんで。飲食店の方と直接契約している農家さんって少なく。大体物産館に卸しているんで。

白水) 飲食店のオーナーの方の産地ツアーってあるじゃないですか？それってやってもダメなんですか？

増田) 対応できなくなるんですよ。少量多品目作っている農家さん多いんでそれもちょっと問題だと思うんですけど、量が採れないんで。うちのこれが美味しいというよりは、うちがこれだけ作ってるから、どれか使ってくれてなるので。少量多品目は大変だけど収入的には安定する。単品目大量生産だと取引先があれば安定するけど、取引先が無ければ、安定しないとか、大変なんですよ。いろんなバランスが取れば。気軽に入ってきてもらえる雰囲気があれば。農家は皆出てこなくて、出てくれば皆で意見出して、ワイワイして、焼くにはこうやったら美味しいけど、別にこうやったら美味しいですよとか。

有村) 病院の先生とか、天文館に行って代行使って帰ってくるから。お金は持ってるけど落とさない。食べさせる店が無いんですよ。個室も無かったり。居酒屋の延長線上ばかり。横川のピザ屋バンビーノが天空の森に行くんだよね。富裕層が求めてるってこと。ああいう珍しいやつ。サルディーナ島出身のイタリアの方がやってる。ここらへのピザとは次元が違って。1泊20万のホテルのシェフなので、すごい。

白水) 横川駅を宿泊所にしたいんですよ。あそこキッチンもあって飲食許可も取ってて、一組限りのレストランとかやったり、朝5時半の電車で起こされるけど、それも含めて楽しむ駅に泊まるツアーみたいな。しかも国の重要文化財ですから。霧島市の持ち物です。あと6畳くらいの和室がある。それいったら嘉例川駅もある。霧島って鉄道もあるから、県内最古が2個あるっていう、霧島のネタはいっぱいある。

有村) 何でもありって記憶に残らないですよ。幕の内弁当なので。贅沢な悩みですよ。ネタがありすぎてどう表現したら良いかっていう。

白水) 歴史も深いですし。なんなら神話までいけますし。山と神話がくっついて面白いし。

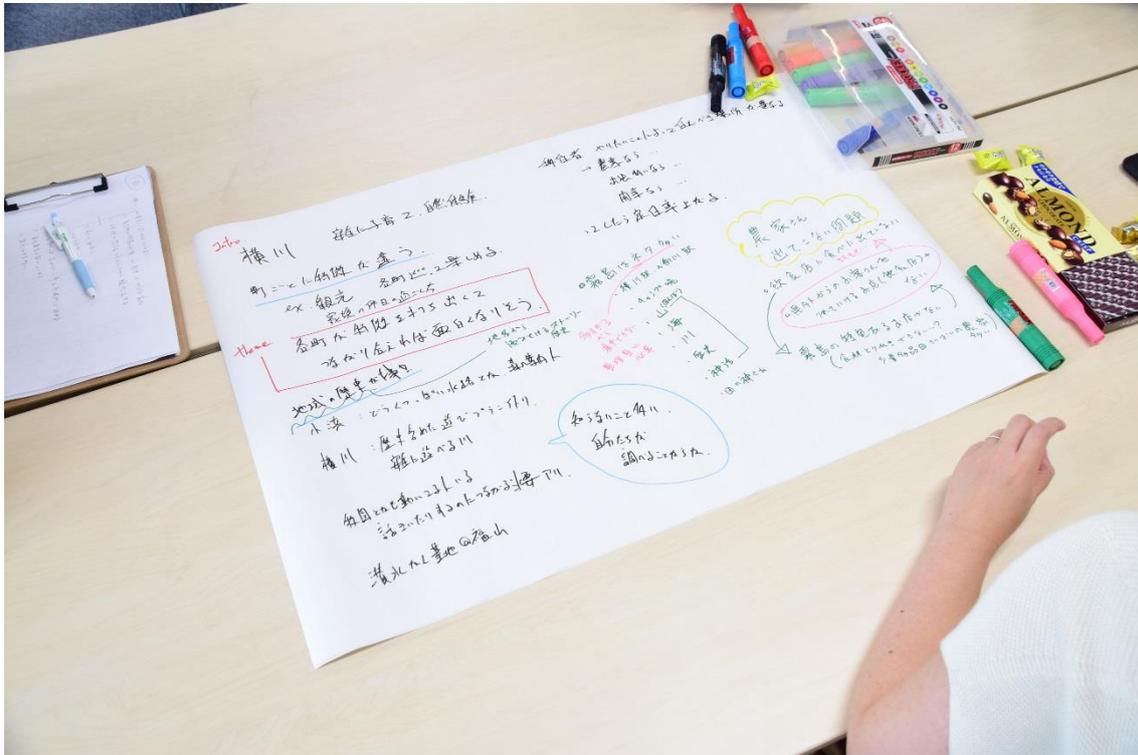
有村) あと田の神様(たのかんさあ)って日本でここだけ。それだけ神様にすぎるしかなかった。

増田) ですよ。山の神様が田んぼの時期になると桜の木を介して田の神様になる。昔の人は田んぼと同時に山も見守ってきた。

白水) 田の神様って一個一個顔が違うから面白いですよ。横川は田の神様ツアーできる。ネタが多いから整理整頓が必要。

有村) 各地区の字は防災の意味でも重要なんで。沼とかついているところは危ない。

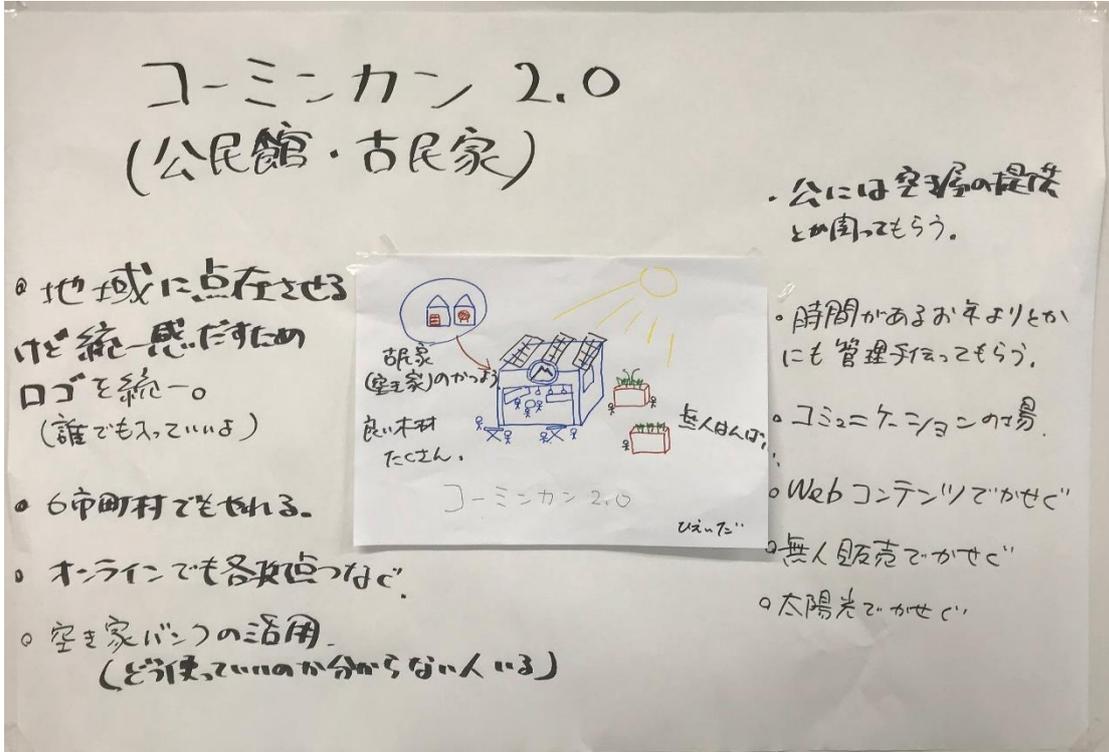
大西) 人生で初めて歴史に興味を持った。知ってもなあと思ってた。



○選択セッション①

Bルーム) コーミンカン 2.0

メンバー) ●日永田、徳永、松本、奥野



～プロジェクトプレゼン～

●日永田

(絵を見ながら) これ空家です。空家に眠る家具とか、いい感じの柱とかなんでもいいんですけど、いい感じの空家を1ヶ所じゃなくて何箇所か作って、公民館のアップデート版みたいなをつくりたいなと。ここにバナナワークスさんにカッコいいロゴを作ってもらって、点在するんだけどチェーン店みたいながあると面白そうだなと思ってます。農業とかも盛んだからここにすれば、先輩たちがどや顔して教えられたりとか、若者もこんなできるぜとか、負担になる光熱費をゼロにするために、初期投資を市に協力貰って、太陽光発電をのせて、自走できる仕組みを作れたら面白いんじゃないかと思って描いて見ました。

～選択セッション～



徳永) アナログとハイテックの融合をやっていきたいですね。

日永田) チェーン店だったら全国同じ経済で統一してもいいし

徳永) 実装ほんとにしたいってなったときに実際にいくらかかるのかっていうところが

日永田) ひとまず空き家バンク登録のやつをフル活用する

徳永) 賃貸としてですよ、わかるひとはわかると思うんですけどね。世代がどんどん変わってきてぼくら世代とかが所有するようになっていくので。でもそれをどう利用していくのか都会の人はわかんないとか。

日永田) 世代が変わってきてるから動きやすいのかもしれないね

徳永) ぼくも田舎にこういうのあるけどこう使えばいいんだ、ってなってくれればいいですよ。壊すしかないって思ってる人多いでしょうからね。負の不動産みたいな。

日永田) 税金だけかかるみたいなね。

松本) 今現状としてはぼくも小浜で歩き回って3, 4軒貸してくださいっておねがいたけど断られた。荷物動かすのめんどくさいとか、息子が帰ってくるかもしれないとか。家賃収入増えると税金増えるからいやだとか。とにかくめんどくさいからしたくないって人多い。有村さんも大変だと思う。

日永田) そこに関しては、太陽光みたいなのをのっけてお金はその人のもとにいかせて、最低限だけ稼げれば。最初だけお金かければみんなでわけられる。

徳永) 実例ができればこういう仕組みでいいんだってわかってもらえる。官民一体だとよりいいのかな。

松本) オンラインとか同時接続とかしてプライバシーの侵害とかいう人いるかも。

日永田) 普通の公民館でも職員いないと寝泊まりできないとかある。めんどくさい。

松本) 民間の公民館のほうが今想像しているプランだったらやりやすいのかなと思う。

日永田) 空き家の情報だけ協力いただくかたち。

松本) 有人にするか無人にするかでコストも変わってくる。社会保険とかも絡めると3, 40はかかるんじゃないかな。

日永田) 喫茶ランドリーは自分たちが主体でやっている、暇なじいちゃんばあちゃんがいるメリットをみいだしたら。居心地よければ結構いると思うんですよ。島とか行ったら木の下にずっといるじゃないですか。

徳永) 無人販売で一日そこに座ってるおばあちゃんいますもんね。そういう人巻き込みたい。つながるといいですよ。そういうの求めている高齢者もいるので。

松本) つながりたいしゃべりたいもあるけど、例えばうちの近くの公民館、隣の大家さんが管理してたんですけど、体力的に厳しい草刈とか掃除とか。つながりは求めるけど管理はしたくない。だから閉鎖するって言って。普通の公民館は閉鎖しつつある。いたい人は戸締りするとか洗いものするとか管理の方法を見つけたらもっと現実的になると思う。クラウドでどうにかできる部分もある、スマホで開けるとか。なんのために開けるかってつながりとかコミュニケーションとるためだからおじいちゃんおばあちゃんいたほうがいいかなって。

徳永) ウェブ系習得したらそういうのができるようになるよね。



松本) 電気代は太陽光でできるけど月々の運営費をどこからもらうかですよ。公民館は自治費で賄うけど。そういうのもいいかもですよ。それこそバカンスみたいところ、あ

そこ会費 500 円ですよ。

日永田) いづろ通で似たようなことしたけど、通えない人は離れて行っちゃう。わずか 500 円だけど。入場料でもいいけど、少しだけ見たい人とかはなんともいえないよね。

松本) 無人販売とかがいいのかな、自分たちで作った竹細工とかを売るとか。

奥野) YouTube でライブするとかそれで収入得たり。今これでやれば新しい取り組みですよ。カメラここにおいてそれを流すとか。暇な人は見てくれる。スタバに絶対勝てると思います。

松本) なにがいいって家賃が安いところですよ。

日永田) 無人販売の Web カメラも面白いかなと思ってて。変わり種つくってこれ送ってほしいとか需要出ると思う。

松本) 公民館ってもともとそういう場所だと思う。喫茶でもカフェでもなく公民館で非営利的な雰囲気いいですね。カフェを代替ではあるかもだけど、ほんとに公民館ってのではないと思う。

日永田) 普通の公民館だと変な人寝泊まりされたら困る。

奥野) 新しい人はやっぱり入り口の部分で判断すると思う。

日永田) 経済効果考えると見た目よくしてコーヒー屋さん停めたりとかイベントしたりとか。土地余ってる所ありそうですよね。

松本) やっぱりそういうところ一軒ずつまわって仲良くなるしかない。

奥野) りえさんも苦勞したみたいです。空き家はあるけど借りられない。

日永田) できればそういう人たちを探してそこに住んでる人でできるか。なんかやるってなったら市の補助ってありますか。

勘場) 最初の段階と維持管理して行って修理が必要だとか広報していったり看板作ったり。段階が出てくると思うので、どこで補助っていうのは今難しいですけどどういう形で行政がフォローできるか考えていくのがいいですよ。

松本) どっちにしても半分とか3分の2とかなので残りの費用は会社が負担を考えないといけない。何年やりたいとか。めっちゃやりたいのにできない。お金も借りられない。

徳永) 違う地方から移住してもらってそこから補助金出すとか、、、

勘場) 中山間地域に指定されてる場所なら市内からでも。

松本) 小浜とかでもいいのか。

日永田) 屋根と床さえあればいい。あとかっこいいロゴマーク。

徳永) 小浜一か所くらいできそうですけどね。太陽光いまいくくらいなんですかね。

日永田) 今安くなってて 100 万あれば。初期投資どれくらいだろうな。

松本) 200 万くらい運営する会社が運営費まわしてたら中で野菜売るだけじゃなくて YouTube ながしたりできる。誰がやるんだって話にはなるけど。理想は 2, 3 店舗できたらインパクトあるんですけどね。

宮之原) イメージとしては中山間地域？

日永田) 一市六町にあってもいいのかな。あたらしい公民館のかたち。

徳永) 中心市街地に一個あってもおもしろいでもんね。

松本) 中心地は本拠地があって。中心地であればお金に代わるってイメージできやすい。農業もうまくいくかも。

日永田) 増田さんつれてこなきや。継ぐ人いないとか空き地多いとか結構困ってた。この前見たのが太陽光の収益と運営費で稼ぎがあるみたい。農業しか知らない人が来ると不安あるけど太陽光でも稼げるってなると来やすくなるのかな。京セラとか巻き込んで。何個か一気に作るってなったら企業もきてくれるかな。中山間の補助金使ってやってみてもいいかも。自分もこの前付けたけど、設備代が安くなってる。自分ちで消費できる分は稼げるからお得になってる。余った分だけ売るシステムだから。

徳永) トントンにするには時間かかるけどってことですね。

松本) 100万安いですよね。うちもつけようかな。

日永田) 余った分だけ売る形だからいいですよ。

徳永) 事業向けだと違うんですかね。申請方法が違うとか。

日永田) 20年あれば。今6,7年でペイできるところも。蓄電池とかも今から安くなると思うから。



徳永) 太陽光って環境的な面で行ったときにどうなのって言われたこともあって。今CMやってるメガソーラーとかで保証期間きれてそのまま山で壊れて眠ったままのものがあるらしい。その中の水銀とかの処理方法確立されてないらしい。長い目でみたときにほんとにエコなのかって。企業も今メガソーラーの事業があるのはわかってる。10年後撤去する仕事

があるのもわかってる。とりあえず仕事のためにやってる感じですよ。山で壊れたら取り出せないですもんね。実はすごい環境破壊になるかも。

日永田) こんながつりしたやつじゃなくて、家電とかをつなぐだけのやつでもいいかも。

徳永) 水力発電とかよさそうですよね、天降川あるし。

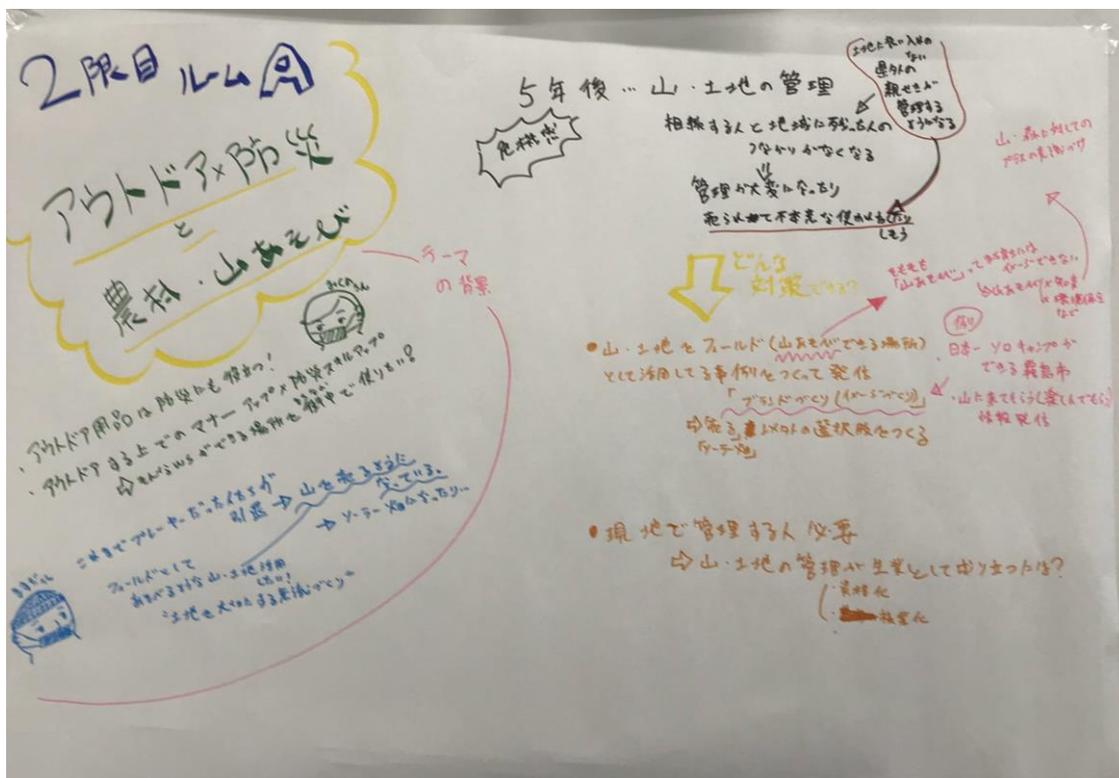
松本) そういうコンセプトあるとラボ費としてもらえるかも。ランニングコストゼロでできたら無限にやれますよね。それが広告になって違うところでお金が入るとか。宮之原さんよく言うけど。

宮之原) 視察に人手がかかってそれでお金とる。ただでは教えない感じ。

松本) こういうの2, 3店舗できたらそういう話になりますよね。全国からくる。バナナがロゴの著作権ちゃんともっとかなきゃですね。

○選択セッション②

Aルーム) アウトドア×防災×農村のあり方、山遊び、中山間地域のこれから
メンバー) ●奥野、●増田、白水、徳永



～プロジェクトプレゼン～

●奥野

僕が考えているのは、アウトドアと防災を掛け合わせた、霧島の自然は海もあって山もあって豊かなんで、自然と人をつなげたいと思って、かつアウトドアの楽しさだけでなく、災害があったときの強いまちづくりじゃないですが、だべらナイトやってるポケットパークの炊き出しができるようなかまどベンチが凄いいいなと思って、街中に緑地帯ができれば良いなとか、お祭り広場を一個潰すじゃないですけど、ちょっと緑地帯にして、街中でキャンプじゃないですけど、自然と触れ合う機会を作りつつ、そこから霧島の自然=キャンプ場につなげるために、街中のキャンプ場でスキルを上げて、霧島の大自然に人をつなげるような、なにかしら自然と人がつながれる場所を街中に作れたら、凄く楽しいんじゃないかなと思ってます。あと実践的な防災を織り交ぜつつ、やれたら楽しい街になると思ってます。

●増田

僕はやりたいことというよりは話したいことです。中山間地域に住んで農村とか、これからどうあるべきか、防災に関しても鹿児島県と宮崎県で山林保有面積が日本でも多くて、ここ近年の災害見てみると、全部山から崩れてて、管理がしてなくて電気の復旧が遅れたとか、

その辺があるので、山遊びしながらちょっとした山の整備とかできるんじゃないかと。あとぜんぜん使っていないところとか切り開けば使えるので、地域の自治会に入っていないところからここまでは誰の山っていうのが分からないので、本当 80 代の人じゃないと地図を見てここはあの人の山だからって言うのは分からない。あと全然知らない人の名義になってたりするので、そう言ったところも考えて話せたらいいです。あと歴史探検とか。何でこんなところに田んぼがあるんだ、畑があるんだとか、もっとこうしたら便利になるので意地になっても維持しているんだろと考えると、意外と深い歴史があったりする。ぼく個人だけだどおじいちゃんおばあちゃん説得しづらいんで、こういうリノベーションまちづくり会議でやってますと言えると説得できるんじゃないかと、皆さんの意見とか聴きたいです。

～選択セッション～



奥野) 僕がただアウトドアが好きってことなんですが、最近アウトドアブームとか、コロナの影響で変わったんですけど、アウトドア用品の移動販売って名打ってるんですけど、ちょこちょこやりたいなって人も増えてて、実際アウトドア商品を持ってれば、遊ぶだけでなくいざ停電したときとか、最近災害多くなったりしてて、停電してもガスあればお湯沸かせるし、赤ちゃんとかいれば、ミルクとか入れられるんで、その辺も紹介しつつも、やっぱりアウトドアやる人のマナーの向上だったり、ぱっとゴールデンウィークに行く人とか、やるだけやってゴミ置いて買ったり、直火で焚き木して地面汚したりするんで、その辺のマナーアップも含めて防災スキルもアップさせるってう、まちなかに自然を豊かにしつつ、緑地帯作って、そこで、スキルアップできるようなワークショップだったり、人が集まる場所をつく

れたら、まちなかでコミュニティができたり、更に地方地方（中山間地域）へとつながったらしいなということを狙って考えました。

徳永) 街中のほうがいいと思います。それが中山間地域になると、

増田) 中山間地域ってあと5年ぐらいで人が減ってきて、ちょうど今の時期、京セラ、ソニー、市役所に勤めている60代の定年前の方々が今後定年していくんですが、そのちゃんとプレイヤーとしてやってきた両親ができなくなっていて、今後どうするか？相続はしたけどどうするか？みたいな結構な範囲の山を売ったりとか多くて、そこがどうなるかというのと、資本をぶら下げられて、ソーラーになったり良くない方向に言っているんですね。中山間地域の現状として。ただそれを見て観光で来る人はいるのか、霧島神宮上がっていく途中に、こっちもあっちもソーラーみたいな。木質バイオマス発電するために木を積んでいるのを見て、え？何？ってなる。そういうのもちゃんとフィールドとして（山が）使われていれば、売るって選択肢が無いと思うんですよ。フィールドとして遊べる環境があれば、いいんじゃないかな。資本の流入は抑えられないと思うので、いかにここの土地を大事にしているかという意識的なことが広がればいいかなと。地域のこれからで、最終的には意識の低い人ばかりになると、メガソーラーが建っちゃって、その上に霧島神宮があるみたいな。いやだ。



徳永) さっきの話でも出たんだけど、20年前ソーラーが出始めのとき、もう動かないソーラーが山に眠っている。霧島もそうなる。処分方法も分からないまま眠っているみたいな。稼動している状態でも絵にならないのに、アレが死んだときにあのへんの地域ってどうなるの？

増田) 僕は土地持ってないけど、あその山は何百万で売れたって話をするんですよ。

徳永) 凄い。意識の変え方って凄い。

増田) 千葉の去年の台風の時、一番困ったのが山の所有者が分からず機械が入れなくて、停電の復旧が遅れたってなって。自治体で管理するものなんですけど、ある程度は広く開拓してキャンプ場にしたりとか、もう少し遊べる場所にしたらどうかなど。いかんせん個人じゃムリだし、どうにかしてできたら。都会は緑を作ることになっているし。

徳永) なんか繋げそう。課題は多いけど。

増田) 白水さんのところも5年すると高齢の方がいなくなって、そうなるちょっと怖いじゃないですか。パタッといなくなった所を一人でやるって大変じゃないですか。準備をするって大事。

白水) 横川もいまから動くって本当大事。

増田) 今の地主さんたちと信頼づくりと、相続されたあとの地主さんとの信頼ってゼロなんですよ。そこをもう1回作り直すとなると、相当な労力だし、関係性ができてないので、しんどくなるかなど。今動けるうちに動きたい。楽しくやっていけたらいいなど。防災もあるし。1限目に有村さんが土地と字を照らし合わせて、危ない場所危なくない場所みたいな大体分かるみたい。坂之下とか。崩れるとか。

奥野) 水がついているところが危ないとかいいますよね。

徳永) まちの防災とか今から大事になってくる。

増田) 土地はたくさんあるけど、フィールド的な場所は少ないじゃないですか。霧島って。

徳永) 中山間から、地方から人がいなくなるとなると、どうするのか？

白水) 人がいなくなるのは止められないじゃないですか。どうやったって。やっぱこういう人がどんどんいなくなって、そこの持ち主が地元にいなくて県外にいて、霧島なんて横川なんて知りませんって人が、山の地主になる。なんかそうなる現状は変えられないから、そこを不本意じゃあソーラー畑にするため売っちゃおうみたいな遊ばれ方をされないように、選択肢づくりをしないといけないと思う。フィールドって言葉に興味ある人はいいけど、一般だったら使わないし、山遊ぶ？どういうこと？みたいになるし、霧島はこういう風に山の活用をしますよという事例作りと情報発信、ブランド作りみたいなのがここに繋がってくるのかなど。



徳永) 山としての管理をできる職種をつくるとか、少しでも収入を生み出す仕組みをつくる
とか。山管理師みたいな、そこに頼めばしてくれるみたいな。買い取るとか。不本意な形で
使われないための使い方を生み出せばいいのかな。

増田) 県外の人とか、特に都会の人の人って聞いたことのないところでも相続したから結構な
お金になるんじゃないかみたいな、手付かずでずっと置いている人もいるみたいで。そこは
市役所の農政課の人達が一生懸命探して、電話して、どうかしてくれっていても知らんが
なみたいな。

白水) 山、土地だけでなく空家もなんですよ。

増田) 家も人が住んでないと悪くなるから、一年地主さんが使うからといって開けたんです
けど、結局使わず、カビだらけみたいな。

白水) 朽ちても持ち主に連絡取れないから、崩すわけにもいかずそのまま、なんか崩れて
いるところがある、安全的になんか子ども達、遊ばせるのいやだって言って外に出て行く。

奥野) 負の連鎖みたいな。

白水) あそこもあるからうちもいいよねってのが広がっていく。空家も山も土地ってのもい
やですよ。

増田) 荒れた所っていやですよ。まちなかのシャッター街も同じですよ。シャッターば
かりだと歩きたくないなみたいな。

白水) なんか負の感じが出ちゃう。

増田) 中山間でも過去施策があったと思うんですが、昔はダメだったけど今はできるみたい
な施策があるんじゃないかなと。

徳永) さっき空家で公民館って話しがあって結構似てて面白い。

増田) 森林保有面積も多いし、最近キャンプブームも来ているので、日本一ソロキャンプができる霧島市みたいな。ここの山を予約さえしていれば、この山でソロキャンプできますみたいな。

徳永) 絶対面白いと思うし、それはどこの地方でもできるというか。

奥野) 他の地方では棚田を利用してキャンプができるみたいな。田植え終わって、開いたタイミングで人を呼び寄せる何かをしようみたいな取り組みがあったりして、山に来てもらう何かきっかけがあればってことですよね。

徳永) 持ち主とかがどうにか分かる仕組みになっていけばと思うけど、自分たちが山を持っていることさえ知らないって人もかなりいるだろうから。

増田) 今年から農地は持ち主が分からなくても、借りれるようになる。放棄されている土地で、相続はされているんだけど、名義変更せずに、何代も続いていて、実際の相続人が分からないみたいな。

白水) 山って税金払うんですよね？

徳永) 固定資産税を払います。

白水) 払っている人だけが分かるということ？

増田) 通知が来るんですけど、どうなんですかね？

徳永) 山遊びをやっていく中で、そういったことを解決していかなければならないっていうきっかけ作りになる。

白水) 山遊びって言葉が、山で育ってない人には分からない。私も街中のほうで育ってて、つい最近まで山で遊ぶって感覚が分かってなくて、川で遊ぶ、海で遊ぶってのは分かるんですけど、山遊びっていう新しいレジャー自体をもっと打ち出していく、イメージ作りしていった方が良い。

増田) なんかも過酷なイメージがありますよね。

白水) 登山みたいな。子どもと一緒にいくようなイメージじゃないみたいな感じだけど。森の幼稚園とか、にじいろタペストリーとかがやっていることって教育に凄いいじゃないですか。子どもの教育とか知育とかそういうのを力入れてやりたいって思っている人って都会にはすごくいるけど、そこと山と結びつかない。リンクしたらめっちゃいいじゃんってなる。遊びに来る人が増えて、そしたら自然と人が来て、自分の持っている山が売ってソーラー畑にする以外にも方法があるんだって気づく人もいっぱい出でてくる。

増田) 意識を変えることが重要で。70代80代の人達って、植林とか杉とか檜とか植えるとかが全体的だったんですけど、それがいいと思ってて、実際霧島市もそこで森作ってる宮脇さんの100年の森とか、森に混植するんですね。もともと霧島にあった木とかを雑木林を、混植して成長速度を早めて、自然の森をつくるっていう、そういうのが一番良いんだって言う意識づくりを、杉や檜を植えるより良いんだって言う意識づくりが必要か何と。アグロフォレストリーって言葉があるんですけど、森を色んな果物とか植えて、森全体を食べる森に

するとか、そういう場所をもっと作りたいと思ってて、山は欲しいなと思っているんですけど。売り土地って出ている山はとりあえず入ってみるみたいな。不法侵入ですけど。そういったのが増えてもいいかなと。

徳永) 山を本来の姿に戻すってのもいいかもですね。

宮之原) 50年に1回伐採するってそのあとまた植林するんですか？

増田) また植林しますね。杉とか。僕の地主さんが今70くらいなんですけど、切る頃には死んでるんですね。お孫さんがどう使うか。

宮之原) 別の形での土地の使い方ってのもいいかもですね。

増田) 最悪拓けばいい話なんで。そこにちゃんと防災とか、上のてっぺんを削るとか。下が崩れないように。針葉樹でなく広葉樹とか。

白水) そうなるとやっぱり意識付けというか、現地で管理してくれる人がやっぱり要りますよね。いまはそこに住んでないわけですよ。大多数が。

増田) チームじゃないですけど業者がいて皆でやっていくみたいな。

白水) それを管理するってのが、資格なりちゃんとした職業であって、生業としてやっていけるとか、副業でもちゃんと成り立っていけるためには見たいなのが出てくる。

増田) 木の高さも実際20mくらいでいいんですよ。そしたら景観も良くなるし、いま杉とか檜が茂っていて、ちょうど50年に1回くらいの伐採時期なんで、あちこち伐採しているじゃないですか。ソーラー関係もあるし。そしたら見晴らしがめっちゃ良くなって、あ、こんなに見晴らしよかったんだって。実際、また50年後そうだと思うと、なんかショックだなと。これだけ今見晴らし良いのに、また植林しているみたいな。

徳永) でも少なからず少しは必要。家作ったり、木材つくったりするのに。やっぱそういう全体を見れる人が必要。

増田) 木の値段って実際落ちてて。ここは杉・檜っていう風にできれば。

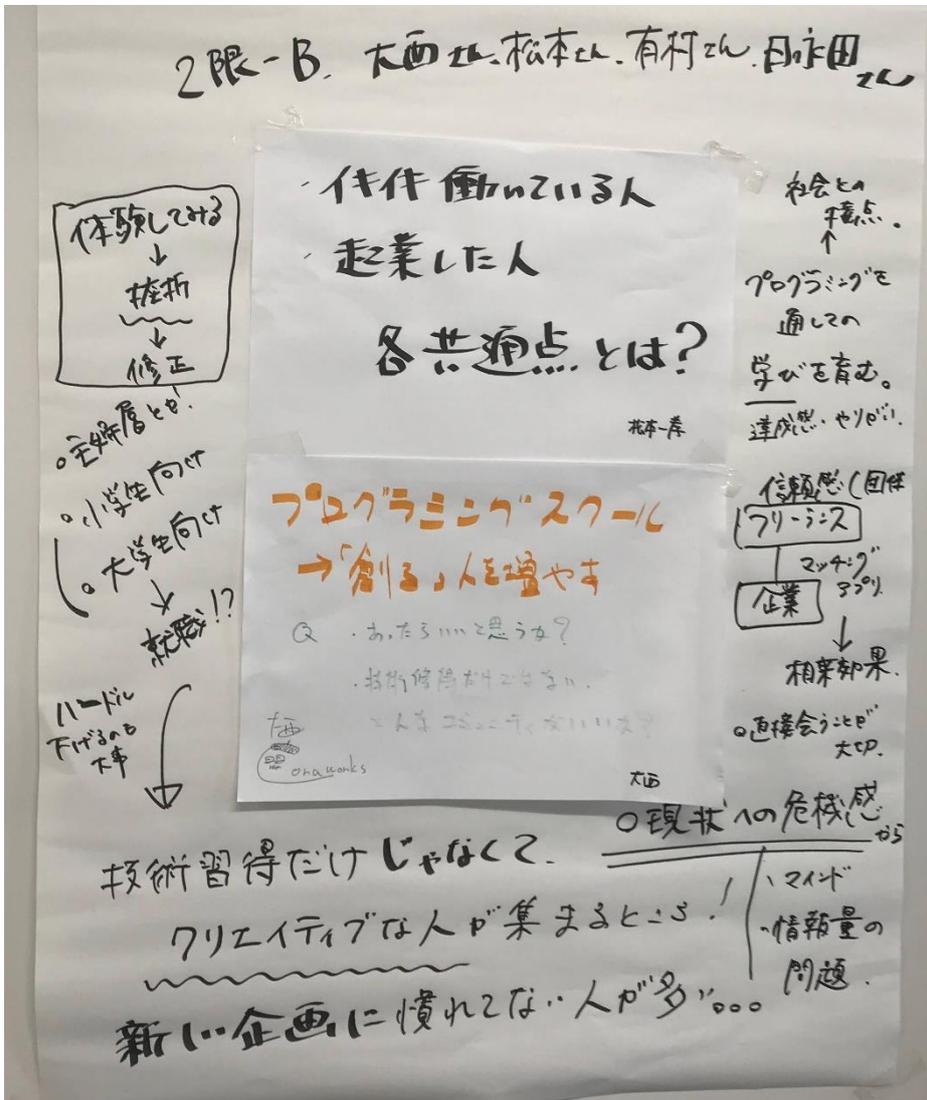
徳永) 災害ってのも杉山が多い。

増田) 管理がされていないので、弱くなっている。

徳永) 霧島くらいだったらできるのか。

Bグループ) プログラミングスクール×イキイキ働いている人、起業したい人、各共通点とは?

メンバー) ●大西、●松本、有村、日永田



～プロジェクトプレゼン～

●大西

プログラミングスクールをしたいと思っていて、技能的なところを伝えるのはもちろんなんですが、もう少し根っこの部分の理由として、造る人を増やしたい創作的な人を増やしたいってのがある。ただ自分はずっとこの仕事に就いているので、プログラミングとかITとか当たり前になっちゃってるんですけど、はたしてそうじゃない方々からしたら、あつたらいいと思うのか、ていうのと、造る人を増やしたいと思ったときに、コミュニティみたいなものを作る形になるんですけど、どんなコミュニティだったらお互い刺激し合ってできるのかなと思います。

●松本

やりたいことは、産業支援とか創業支援とか企業支援の全般なんですけど、それがゆくゆくは霧島なり、地方なりの活力になるかなと思っていますが、その根底にある「働いている人達がどういう想いで働いているのかな？」というのが大事かなと思いました。そこで、イキイキ働いている人、起業した人はまちを動かしている人だし、楽しい雰囲気をかもし出していると人達の共通点があると思うので、皆さんと話したいなと思いました。

～選択セッション～



松本) プログラミングスクールあったらいいな、はハイって意見です。それ以外にないです。

大西) 集まってるのがリテラシー高い人集まっちゃてるから。

松本) 実際やっていくにはなにが必要かっていうのを、一回されてるんですもんね。

大西) そうですね、継続してく予定で理想があるので。松本さんのとも絡むんですけど技術習得だけでなくクリエイティブなひとが集まる場所があると、自発的になんか生まれるんじゃないかと。霧島来てゼロイチでアイデア出してプランになるまで苦手な人が多い。ITに限らず。青年部いてもこういう企画やるからってというのはみんな動けるけど案出してとかはそこまで。地元の木材屋さんとかタイヤ屋さんとか親の代からやってる人たちは仕組みができてからルールに乗ってって感じ。自分たちで始めるっていうのが慣れてないから。

松本) 革新的なことできる人の違いって何ですかね。

有村) 同じマーケットで行くのかどうか人口減るのに安泰と思えるのか。

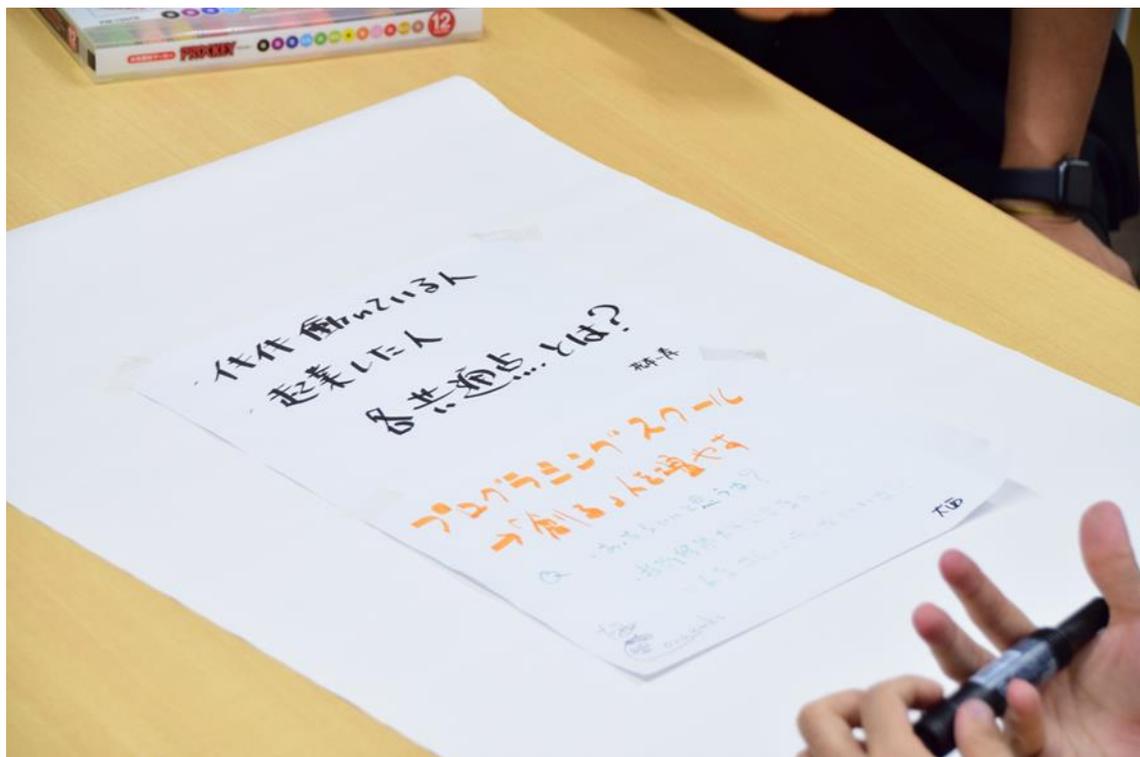
大西) 僕の周りそんな人多いかも。

有村) 情報収集してないのかマインドの問題なのか。

松本) コロナをきっかけに考えるかもしれないですよ。だから忙しいのかも。

大西) ぼくはそもそも自分でやってるから手が足りてない。だからそういう人が増えたら育ててってできるんだけどなあ。

松本) 始良に隼人テックって会社があって。フリーランスやりながら東京のエンジニアしながらおもしろいことしたいって人。エンジニアなんですけどつながって。アプリづくりたいてなって。Uber Eats みたいな。あれはアプリがすごいじゃなくて裏がすごい。でマッチングはどうだろうってなって。フリーランスと企業もしくはそのディレクターとのマッチングをどうかなって。そういう人たちを 100 人集めてマッチングできるアプリ作ったら建前はマッチングだけどコミュニティができるから良い。オフラインサロンみたいなのできるよなって。プログラミングスクールしましょうって時に、ぼくマーケティングやるんでって相乗効果生まれるんじゃないかっていうのを最終出口として雑談で話してます。



有村) ランサーズの地域版みたいな。ランサーズより顔が見えるっていうのがいいよね。あれはやっぱりばらつきすごい。

松本) 会って話すとこの人はどのレベルであがってくるっていうのが分かる。特に企業側がアウトプットできない。あってヒアリングしてこっちが提案してシステムに落とすとか。

有村) ランサーズは企業側の能力が問われる。発注の仕方とか。普通の人はできない。

大西) フリーランスと地元のディレクターマッチングさせるのすごくいいと思って。松本さんの知り合いがいて企業側から来たなら誰が適してるとか選出できる。フリーランス飛ぶ人

が多い。連絡全然来ないとか。だから団体っぽく出来たらいいなって思う。

有村) メンバーに限らずいろいろ条件ないと。

松本) 顔合わせると飛びにくい。飛ばれると全部スケジュール敷きなおしですもんね。

大西) 直接会うのほんと大事。

日永田) 場が必要ではなくてアプリでもいけますかね。

松本) いや直接会う場はやっぱり必要ですね。場とシステムとどう広報させるか。人集まっても仕事なかったら意味ない。

日永田) この霧島市の規模でいうとプレイヤーは見えてる。

松本) でもぼく大西さんと会ったの半年前なんですよね。そこで今の縁につながってる。もしかしたらあえてない人がいるかもしれない。

大西) 一人でやってるひとって引きこもりタイプ。ぼくそうでもないけど今まで出会えてなかったのがあるから。探せば。入ってくれないかもだけど。

松本) 実力ある人は指示する側にいる。ストックさんて会社がまさしくそれをしてる。そこまで大手のって仕事ではないけど 100 人のコミュニティの中に育成を組み込むと、デザインとかプログラム勉強してみようかなって人が増えれば。霧島で SE 勉強したいって、なにしたらいいかわかんないですもんね。



日永田) 子どもとかの芽を育てるっていう意思が強いんですか。

大西) もともとはそうだったけどいくつか候補作っていいかなって。小学生向けの学校のプログラミングとか、もっと本業の人は欲しいですけど。余力があれば本業にしたい人向けの大学生とか。バイトとか。教育費もらって教えて、OJT いらないですもんね。

有村) 主婦とかもいけそうだよ、片手間で。

日永田) プログラミングって聞いたら敷居高いけど、ウェブ制作からつくってもいいかもです。ウェブ作られれば仕事とかも増えるし。

大西) どこに需要があるかってこと。Youtubeとかでもあるし。直接会えるっていうのはでかいけど。僕らにとってはメリットと思っても一般の人はそれをメリットと思うかどうか。

大西) 市役所的にはどうですか。

池田課長) うちの息子も塾でプログラミングしてます、本人も好きみたいなので。誘致企業、製造業なんですけど社長さんの話を聞くとプログラミングの考え方を育てるのは必要ですよ。やってみてだめなところをわかってできた達成感があると挫折しても乗り越えていける。そういうのはプログラミングにもある。

日永田) 楽できるっていうのはありますよね。エクセルずっとやってる人もいるし、それ5秒でできるのになって。インプットさせてあげないと。

松本) デザイナー思考とエンジニア思考がある。エンジニアはどちらかという答えを求める。最適解が1つしかないのがエンジニア。まちがったソースいれたらアウト。デザインは間違っただ点が入るとそれが味になる。文系と理系みたいな感じ。日本人は解を求めてしまう。だからエンジニア思考を追求しすぎると汎用性がなくなるというか、クリエイティブさがなくなる。プログラミングばかりやると間違っちゃいけないってなっちゃう。間違えてもいいって思ってエンジニアなってる人はそれでいいけど、若い子に教えるとそれをすり込んじゃうかも。

日永田) 最近のプログラミングって面白くなくなってる、高級言語になってる。全部関数に放り込んだら答えが出るからアルゴリズムの部分を知れるっていうのはかなり重要なと思う。かなり作業的につまらなくなってる。開発する人はすごい人が書いて放り投げてるだけ。

有村) 職人と同じ。だれでもできるようにしてて技術がある人はどんどん減ってる。

日永田) 仕事についてもそれをやる場がなくなってる。仕事あってもこんなもんかって、おもしろくないなってなる。

大西) 入りは楽しんでもらえるけどそのあとにはオブジェクト思考的なものがある、実際求められるのはそこ。ゴールを仕事と考えないほうがいいのかな。

日永田) これが理系だけのものだけじゃなく、もっとこれが楽になるよって宣伝なら人が来るかも。よくあるのはパソコン準備するの大変だから札準備してやるとか。

大西) 理想はプログラミング作法は覚えたいってこんな自分は作りたいとか発想は自由にしてもらって具体的にかたちにするにはって両方できたらいいんですけどね。

日永田) 右脳左脳をうまく使い分けるというか。

有村) そういう子たちが会社に入ったときにアルバイトとしての姿が見える？

大西) コーディング

有村) そういうのもいいんじゃない。接点を社会と持たせる。

日永田) 日頃見てるサイトがどうやってできてるか。そういうブラックボックスを解くと興味もってくれるかも。そこから仕事を与えるといい。

松本) なんだかんだ半分くらいそんな仕事ですよ実際。

日永田) できあがったのを確認するとか。

松本) 制作業界は高卒、中卒とか低学歴の巣窟になるだろうといわれてる。高学歴じゃなくても技術蓄積して。

日永田) 達成感はなくなる。できて当たり前のことを大量にやられるから。納期守らなくて怒られるとか。どっかでミスったら挽回できない。発注した側はこっちがミスったことだからそんなの知らないって大変なことになる。

松本) ほんとにやれる人たちは勉強してディレクターなって。という構図を描けた地域は活性化する。人材を作り続けなければいけないっていう状況。東京いったら信用できるリーダーたちがたくさん。鹿児島はいない。



日永田) そこが面白いですよ。入ってきたのと出ていくので感謝されたとか。うまくいかない会社とかここで止まって、作ったエンジニアまで落ちてくればその人のモチベーション上がるんだけど。エンジニアはうまくやっても当たり前だっとなってる。子供とかロボットが完成したらめっちゃ喜ぶ。

松本) そこが始まりでみんなされてると思う。こんな楽になるんだとか。エクセルマクロもそう。

大西) ある程度レベルアップしてきたら求められることもこのレベルみたいな。できることをひたすらやって。

日永田) IP 使えばいいやとか。

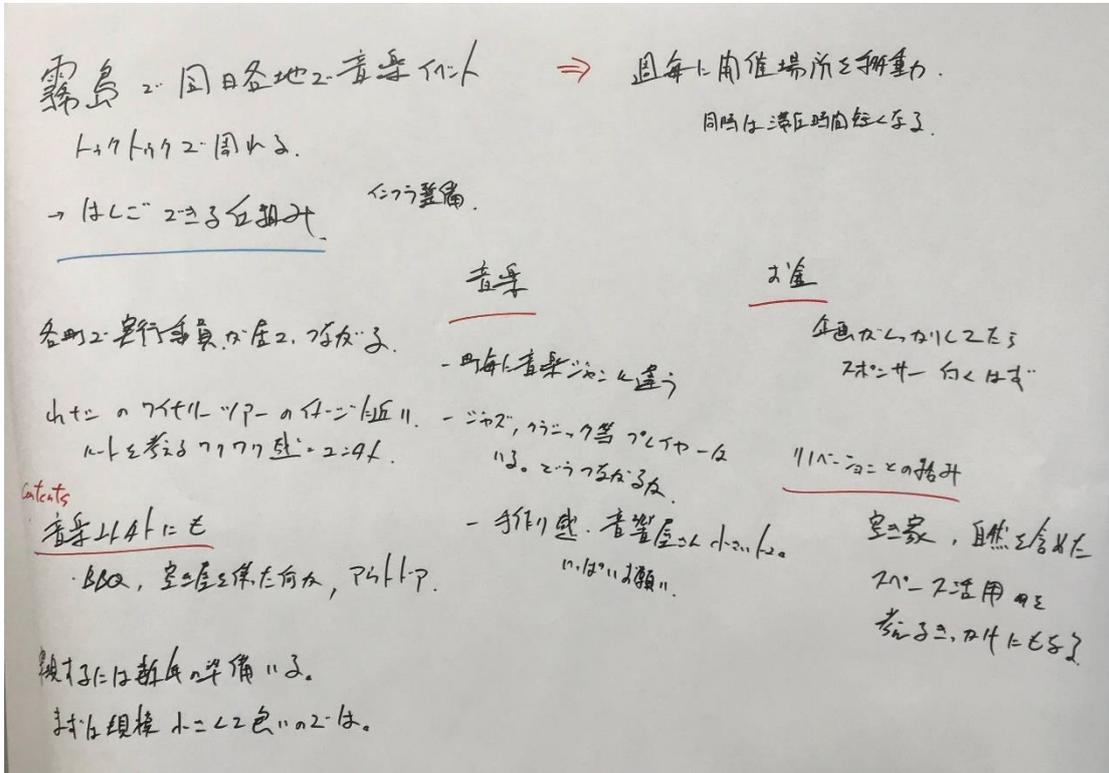
大西) 単純作業ずっとやれんなってなるときもあるし。サーバー最近いじってます。ちょっとやってみようかなって。VPS 借りてとか。

有村) 求められる仕事って広がってきてる気がする。できれば広がってくる。幅はすごく大事。やったことないことでもやってみようかってなる。

松本) 幅広げていったほうが楽しい。

○選択セッション③

Aルーム) 霧島市1市6町でつながるための合同イベント×音楽が盛んな街
メンバー) ●徳永、●大西、白水、徳永、松本、日永田、有村、増田、須部



～プロジェクトプレゼン～

●徳永
ざっくり何ですが、霧島の1市6町がつながるための合同イベントをやりたいなど。事前のアンケートは霧島縦断 100 キロウォークみたいなのを書いたんですが、霧島は素晴らしい場所とかを回る 100 キロを歩くイベントをやってもいいのかなと、今コロナの影響で人を集めることも難しいので、だからこそ地域ばらばらで、各地域で全体で合同でやることで、その地域の中でのスタッフがいるでしょうし、そこでキーマンが出てきて、つながりやすいんじゃないかなと。別々の日付で各地区イベントをやっているとなかなか一体感は生まれないので、同じ日付のを決めてやれば、具体的な内容は決まっていんですが、皆さんの意見を聴いていければと思います。

●大西
私ドラムをやってまして、音楽が盛んになったら良いなど。前研修で浜松に行ったんですけど、街の中に音楽が満たされてて、大体子どもが何かしら習っているとか、お披露目するようなイベントもいっぱいあるし、これも根本のところは、造る人を増やしたいと繋がってくるんですが。中々国分で、やってる人は多いんですけど、あんまりお披露目の機会が少な

ったり、今はコロナでしょうがないんですが、そもそも皆さん興味あるのかということと、どんな街だったら音楽に興味持ってもらえるのかなと、例えば街中でよくイベントやっていたりとか、いい演奏聴けて、子どもが興味持って、楽器やってみたいとか、どんな感じのものがあれば興味持ってもらえるのかなと相談したいと思います。

～選択セッション～



徳永) 須部さんはすでに何か案があるんですか？

須部) ウォークインフェスとラブベをコラボして。色んなものを同時にやる。相当面白い。

徳永) ラブベは今年やる方向で、人は集められないので、練り歩きって方法で、災害復興支援の募金活動を兼ねて、30人くらいで溝辺を練り歩いて、いつもやってる限界集落のライブをする会場「こもればの森」で、100人限定の関係者だけのライブをする。配信だけをして募金だけできるみたいな。今年一年は考える年にしたい。あとはトークライブもしようかと。

須部) 最後、始めます。ここまできたので拍手。これは皆で最後祭りをつくるみたいな、徳永さんと大西さんと少し話してもらって、始めて行きましょう。

徳永) オンラインのミーティングで話したように、1市6町素晴らしいまちがあるんですけど、あまりその土地について知らないっていうのもあったり、その情報も入ってこないっていうのもあったり、人と人とも中々つながれないところもあるので、その意味でもその地域

の特性を活かしながら合同でイベントができたらと。学校地域って書いているのは、学校のあり方ってのを考えたくて、僕らの小さいときと違って、学校と地域ってのが中々一緒になってやるってのがなくなっているのも、もっと学校も繋がって、活用できるのも面白いのかなと、何かできたらなと思ってます。

大西) そのイベントになにか音楽も乗っかかれたらいいなと思います。さっき伝えたように、霧島の人が良い音楽に触れる機会があったらいいな、やれたらなと思って、そしたら私も楽しいし、結構音楽やっている人が多いし、活動してる人も多いので、便乗しようということ。

徳永) 1限目、2限目に話した内容をやっても面白いんじゃないかなと。今、須部さんと話をしていたウォークインとラブベを一緒にやるってのも、その会場だけになっちゃうので、それをやりながら地域地域でもやるってスタイルでも楽しいのかなと思ったのですがどうでしょう？



有村) はしごできたら楽しそう。

松本) 1市6町同時のフェスってのも。フジロック行っても場所をめっちゃ歩く。なんかそれをトゥクトゥクでいけるとか。最近、電動自転車いいなと思ってて。10万くらいでめっちゃカッコいい自転車あるみたいで。ママチャリじゃなくて。

徳永) アーティストとかも一箇所じゃなくて、ここには誰がいるとか、山の中にいるのか、古民家にいるとか、いろいろはしごできたらおもしろそう。

増田) 最近のフェスでも場所が分かれているじゃないですか。会場の中でも。

有村) ケーブルテレビ乗っかってくるんじゃないかな。お祭りの生中継してたし。

松本) 現実的に霧島市の1市6町回るってなったら、朝何時から何時までかかるんですかね。

徳永) 2 days とかしてもいいんじゃないですかね。宿泊もできるし。

須部) もう金土日、前夜祭もとか。

松本) 宿泊するならアウトドアでしたい。



大西) 霧島の全部のリソース使えるみたいなの。自然も飲食も。壮大すぎる。

須部) いまあることを同時期にやるってことよね。

松本) なんかそれをつなぐインフラを考えないといけないですよね。バスなのか、トゥクトゥクなのか。

徳永) 一緒にやれたら面白いですよね。地方地方のキーマンというか、スタッフ実行委員とかもつながれるだろうし。

松本) もしやるとしたらアーティスト何人くらいいるのかとか、スタッフ何人くらい必要なんですかね。

徳永) ラブベであの規模で40人、飲食店もいれると100人とか。

松本) それを1市6町でやると。

須部) 最初が大変だと思うけど、1回作ってしまえばできないことは無いと思う。今あるモノを掛け合わせながらやると、仕組みだけだし、人はいるから。

松本) なんか山梨のワインツーリズムに近いんですかね。その音楽。アレってなんか前もってお客さんがどのルートでどう行こうかみたいなのを考えるのが楽しいから、その日だけでなくて、行く前から楽しめる。あとはどうやっていくか。

徳永) 音楽以外でも空家とかで面白いのしたら、幅が広がりますよね。

松本) ポップアップのコーミンカンとか、そのときだけの遊びができるとか。農業体験もできますよね。

有村) 移動式のBBQとか。

松本) 同時にできたら各土地の特色生かしたり、多分山の中にある地域と国分のまちなかは違って、その地域にあわせた音楽とか、ゆったりした音楽とか都会的な音楽とか、雰囲気合わせた音楽だといいかも。

有村) 場所ごとにジャンルを分けるのは面白い。



日永田) 下井海岸はフラダンスとか。

徳永) 霧島市でも太鼓とか伝統的なものをありますし、知る上でも面白い。

須部) クラシックとジャズみたいなのが、霧島合うような気がするけど、あんまりクロスしないじゃないですか。

有村) いる。ポツンポツンっている。オペラ歌手がいる。イタリア帰りの隼人に住んでる。

須部) なんかに一緒にやると面白そうだし、人はいるから。クラシック人口めっちゃいるから。

松本) もし国分が人の交差点になるとしたら、そういったコラボレーションを国分でやって。

日永田) 自分たちで音楽祭やってみたい人いますよ。

有村) ミヤマとかで。

大西) あ、ミヤマで働いている人って、大体楽団入ってますよ。

日永田) 相当いそうですね、霧島市。

松本) 有名な人呼んでフェスやりますってのではなく、お祭りといっても人が集まる、食べ物があって、物販があつてみたい。

大西) ウォークインフェスじゃないけど、自分たちの街は自分たちでつくるみたいなのがあっても。

松本) そのものですね。音楽はあくまで一つのパーツであって、違うものを一緒に出すっていう。

日永田) 学生とかもいれたらよさそうですね。コロナでできなかったから。

松本) 面白そうですね。吹奏楽とか、マーチングとか。それやろうとしたときに、場所があるんですか。各エリア毎に。

徳永) のきさき市はどんな感じなんですか？

須部) 店舗に任せつつも、音響はプロに任せるとか。結構今、ジャズ界も結構動いていて、天文館でやってたりするから、巻き込みながらすれば、コンテンツ作りは出来ないことはない。ちょっとずつやりながら、ITも入れば。



松本) アプリ導入したりとか。いきなり全地域でなくても、最初は3地域とかで、同時多発的にやるってのをゴールにして、インフラどうするかとか、主催者担当者の思いでそこは作ってもらって、運営事務局自体はそこはノータッチで。あとは機材ですね。

徳永) 音響関係は霧島始良でも結構個人でやっている人いるので、小さい規模で作ればいけるんじゃないか。

須部) 小さいのちょこちょこだったらできると思う。そこにオンライン配信が入ると大変だと思うけど。

松本) 音響関係あまり詳しくないんですけど、アマゾンとかで売ってる3万4万の機材で

きるんですか。

大西) ステージ作って、バンドやるには足りないだろうけど。

徳永) 集まらなくてもできるって環境を作ってあげれば。大きくやらなくても。増田さんの畑とか。

日永田) 結婚式もできるし。



松本) 音楽に縛られずに、各自やりたいイベントをこの日にやるみたいのでいいんですかね。

有村) もともとやってる自分たちのイベントを併せてボンとする。

松本) 自分たちでやっている10組くらいのキャンプイベントも、集客を自分でするし、運営もする。それを取りまとめるプラットフォームをつくりますよみたいな、ぐらいだったら。

日永田) FMきりしまを使ってラジオ体操とか。みんなその音源でやる。ちょっと鹿児島弁で。一体型のイベントとして。

松本) 本当1市6町で同時開催のフェスやりますという、5年レベルの話になっちゃうんで。

須部) ですね。まずはつながりを作りながら。

松本) FMきりしまに協力貰って、皆でラジオ体操からってのでもいいのかもですね。

有村) いま集められないからね。

徳永) つながりを意識すればなんとかなるんじゃないですかね。あと福山とか分からない。牧園もいないですよ。

増田) 何とかなるんじゃないですかね。場所はいっぱいありますもんね。最悪ホテルのどっかとか。



白水) 回すくらいになったら面白いですよ。2、3日でバーンとやっても面白いんですけど、どうしても一箇所の滞在時間が長くなってしまったり、もう少しみてもらいたいんだけど、サーとすぎてしまったりして、もったいなさもあるので、それよりも毎年9月は霧島が祭りやってる1ヶ月みたいな。毎日じゃなくても毎週末、1週目は霧島神宮あたりでなにかやってる、次は牧園・横川、次は福山みたいな。毎週末巡れるような、鹿児島市内、宮崎、福岡から毎週末霧島に遊びに来るみたいな。パンフレットを作って、来週も来てもらえる。日中を含めてその地域について知れるし、シルバーウィークは国分の街中で一番のお祭りがあるとか。

徳永) 力も入れやすくもいいかも。それでも繋がっているからいいかも。

松本) バトン型式でいいですね。リレーしていくみたいな。新しい取り組みですね。9月は霧島みたいな。

徳永) 雨の日とかかわいそうですね。

白水) 冬でもいいかも。

須部) 霧島ってどのシーズンでも楽しめるしいいかも。夏は避暑地があるし、冬は温泉あるし。

増田) 冬でもやりやすいですね。

白水) 畑で大なべ囲んで鍋とか。

徳永) やっぱり連続でやりたいですね。

松本) 1市6町だと、月をまたぐ感じですね。

徳永) 雇用が生まれそうですね。

大西) スポンサーみつけないと。

須部) ちゃんとコンセプトが成り立ってれば、スポンサーはつくと思いますよ。これ自体がいきたいと思えるものだから、スポンサーは出しやすいですよ。

徳永) 霧島市の企業は出しやすいでしょうね。

須部) 今までなかったんですよね？単体コンテンツぐらい？

有村) ないない。一緒ってのも、連動してどうってのはない。夏祭りでもないよな。

松本) 全国で市でやっている事例ってあるんですか。

須部) 行政が旗振ってやるっていうのはあるけど、民間でってのはないかも。新潟は文化的なアートで、四国とかもアートですね。

白水) 瀬戸内の直島あたりが毎年やってる。1ヶ月くらい。



徳永) てなるとやっぱりテーマとなるものを持ってこない。リノベーションでつないでいくとか。イノベーションになるのかな、山とかの使い方を考えると、イノベーション

松本) 公共空間もそうか。

須部) 空いているスペースの使い方を考えると。住宅スペースだけでなく。

松本) 古民家を使った何かを教えてください。っていうと分かりやすかったり。

有村) テーマとしてね。空き倉庫もあるし。

松本) 遊休不動産の有効活用とか、ぼやけないというか。屋根があると雨の心配がなくなりますよ。

徳永) 皆で考えて、いろんなアイデアがたくさん出たのでそれが醍醐味なのかなと。それを地域の方々と繋がりながら、やっていけたらと思います。是非形にしていきましょう

大西) 話の中でハッと思ったのが、夏祭りの時期とあって各地区で祭りをして、繋がったり、共同でやるのってないんだなと思いました。規模はどうあれ、インパクトのある出来事になると思います。想いもワクワクしたものが出たので、良かったなって思ってます。

